

03 年度以降	教職論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。</p> <p>【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議する。こうした問題への教師の取り組みを考えることを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行ないます。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していく。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。</p> <p>【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由/教職の意義と役割 第2回：学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 第3回：学級崩壊を考える（グループ討論） 第4回：学級崩壊を考える（グループ討論の発表）／宿題：少年法改正について 第5回：ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について（その1） 第6回：体罰を考える（グループ討論） 第7回：体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 第8回：体罰を考える（実態把握）／宿題：体罰について（その2） 第9回：いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 第10～11回：いじめを考える（グループ討論・発表） 第12回：教員の職務内容（研修、服務、身分保障）について 第13回：教師の専門職性を考える 第14回：様々な進路選択の問題を考える 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類によります。参考文献は適宜紹介します。		期末レポートと数回の小レポートを総合評価します。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教職論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要な不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：期待される教師像と目指す教師像 第3回：教員の資質・能力 第4回：教員養成と教員免許 第5回：教員の任用と教育委員会 第6回：教員の身分と服務 第7回：教員の職務(1) 教員の日・学校運営と校務分掌 第8回：教員の職務(2) 学習指導と生徒指導 第9回：教員の研修 第10回：教員の人事評価 第11回：教職の現代的課題(1) 地域・保護者への対応 第12回：教職の現代的課題(2) 教員の事故・事件 第13回：教職の現代的課題(3) いじめ・不登校問題と非行問題 第14回：教育理念と教育信条</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03 年度以降	教職論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。</p> <p>【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明／「学力論争」をどう考えるか 第2回：教育の思想と歴史（その1）戦後教育改革とコア・カリキュラム運動の思想と実際 第3回：教育の思想と歴史（その2）能力主義教育の思想と実際／新自由主義教育の思想と実際 第4回：学力問題の国際比較（学力調査について）／小テスト実施予定 第5回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第6回：学級編成の問題 第7回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第8回：系統学習と問題解決学習について 第9回：「学力低下」と学力テストについて 第10回：能力を考える（教育基本法第3条） 第11回：教育における競争と自由の問題を考える 第12回：子どもの権利条約の精神（保護と参加／3つのP） 第13回：子どもに固有する権利と人権との関係 第14回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円）／参考文献は適宜紹介します。		期末試験結果に、感想文や小レポートの提出、実施した場合には小テストの点数等を加味します。	

03 年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教職課程履修者のうち、2年生以上を対象とする。</p> <p>●概要 教職課程の基礎理論として教育史、教育哲学、教育行政などの理論や、学力低下や習熟度学習など昨今の教育に関するトピックなど幅広く扱う。 大人数での講義形式となる予定であるが、できるだけ各自で考え、意見交換する時間を設けたい。どう考えるか、自分ならどうするかを考え、積極的に意見交換をしてほしい。</p> <p>●その他 毎回、プリントを配布するが再配布には一切応じない。 講義のまとめや、理解を確認するために小レポートを数回書いてもらう。 また、授業計画は状況により若干変化する可能性がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義に関するガイダンス (授業の進め方、評価方法、受講にあたっての注意事項など) 2. 教育とは何か (教育哲学) 3. 学校とは何か (西洋教育史) 4. 学校とは何か (日本教育史) 5. 学校とは何か (まとめ) 6. 心と体を育てる (学力・道徳) 7. 学力低下をどうするか (習熟度学習の是非) 8. 教育評価 (相対評価と絶対評価、偏差値) 9. 教師の仕事 (教員免許更新制) 10. 社会教育と生涯学習 11. 教育基本法 (新法と旧法の違い) 12. 子どもの権利条約 (宣言から条約へ) 13. よりよい教育を求めて 14. 社会の変化と教育政策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田嶋一ほか著『やさしい教育原理 (新版)』有斐閣		学期末テストを基本とし、出席、小レポートや授業中の発言など授業への貢献を加味して評価する。	

03 年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学 (交流文化学科学生)	担当者	白砂 佐和子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育現場で仕事を行うにあたっては、さまざまな形での「人間関係能力」といったものが高く要求される。本授業ではその「人間関係能力」の理解を念頭におきつつ、教育現場で活かしていく教育心理学の習得を目指していきたい。</p> <p>最初に、教育心理学のこれまでの知見を踏まえたいえで、人格の形成、発達上の課題、子どもたちにみられる不適応の諸相、学校現場での人間関係について講義していく予定である。</p>		<p>第1回：教育心理学について・オリエンテーション 第2回：人格理論について(1) 第3回：人格理論について(2) 第4回：発達上の課題について 第5回：発達上の課題－乳幼児期の重要性 第6回：発達上の課題－学童期前半 第7回：発達上の課題－学童期後半 第8回：発達上の課題－思春期前半 第9回：発達上の課題－思春期後半 第10回：発達上の課題－それ以降の問題 第11回：学校現場でみられる「不適応」の諸相(1) 第12回：学校現場でみられる「不適応」の諸相(2) 第13回：学校現場でみられる「不適応」の諸相(3) 第14回：学校現場での人間関係－「人間関係能力」を活かす</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜レジユメを使用する。参考文献は、授業の中で適宜紹介する。		出席状況と期末試験の結果から、総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学 (交流文化学科学生)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに、必要とされる心理学の基礎的知識について講義を通して理解を深めてほしい。</p> <p>教育心理学には大きく (1) 測定・評価, (2) 人格・適応, (3) 発達, (4) 学習という4つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの4領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち, 1. 教育心理学とはなにか, 2. 教育評価と学力問題, 3. 学習の過程と学習への動機付け, 4. 発達および発達障害などについて講義していく予定である。</p>		<p>第1回：教育心理学の領域とその歴史 第2回：教育測定と教育評価 第3回：教育評価の方法 第4回：教育評価と学力問題 第5回：学習の原理 第6回：学習における動機付け 第7回：学習意欲と原因帰属 第8回：学習意欲と目標理論 第9回：学習意欲と教師の役割 第10回：発達期と発達課題 第11回：心理アセスメントと発達障害 第12回：学習障害の理解 第13回：AD/HD の理解 第14回：自閉性障害の理解 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。		出席と学期末の試験により、総合的に評価をおこなう。	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学 (交流文化学科学生)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 09年度以降	教職心理学 教育心理学（交流文化学科学生）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。</p> <p>教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について理解を深めることを目標とする。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。</p> <p>講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。</p>		<p>第1回：この授業の目標と進め方</p> <p>第2回：学校・生徒の現状と学校教育の課題</p> <p>第3回：教育心理学の課題</p> <p>第4回：人間の成長と発達の原理</p> <p>第5回：発達段階と発達課題</p> <p>第6回：児童期までの発達</p> <p>第7回：青年期の発達</p> <p>第8回：社会性・道徳性の発達</p> <p>第9回：学習の原理</p> <p>第10回：内発的動機づけと学習意欲</p> <p>第11回：個人差と教育／障害のある生徒と教育の課題</p> <p>第12回：アイデンティティの形成</p> <p>第13回：教育測定と評価</p> <p>第14回：教師の自己点検</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて示す。		出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。	

03年度以降	教育制度	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：教育の制度化 第3回：学校教育制度の概要 第4回：学校教育制度の変遷 第5回：公教育と私教育 第6回：教育行財政 第7回：教育委員会制度 第8回：教育課程と学習指導要領 第9回：諸外国の教育制度 第10回：家庭教育の現状と課題 第11回：社会教育の現状と課題 第12回：教育改革の現状と課題(1) 学校選択制、小中高一貫教育 第13回：教育改革の現状と課題(2) 学校評議員、学校運営協議会 第14回：教育改革の現状と課題(3) 初任者研修、教員免許更新制度</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教師となるにあたって必要となる学校や教師を取り巻く様々な法や制度について、基本的な理解をすると同時に昨今の教育改革動向について自身の意見を持つことを目的とする。</p> <p>●講義概要 2.～6.までは日本の制度に関する基本的な講義となる。それらの知識をもとに7.8.では他国の教育制度とともに「なぜそうなっているのか」を解説する。9.から11.まで現在日本が対応を迫られている教育状況とそれに対して制度がどのようになっているのかを考える。それらを含め、最後にこれからの日本の教育制度はどうあるべきかについて議論をしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方 2. 学校の制度と組織 3. 教室内の制度と組織 4. 私立学校の制度と組織 5. 日本の公教育制度 6. 日本の中央・地方の教育行政 7. アメリカの教育制度 8. アジアの教育制度 9. 在日外国人の教育と人権 10. ジェンダーと女子教育 11. 不登校とオルタナティブ 12. 教育情報と情報公開 13. 我が国の教育制度改革 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		テスト、レポート、出席状況などを総合的に評価する。	

03年度以降	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育課程論	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>教育課程論は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での教育課程に関する課題について分析及び検討ができる力。 ・学校で教育課程の作成業務を遂行するための方法及び技術。 <p>講義概要</p> <p>テキスト『実践に活かす教育課程論・教育方法論』を使用し、講義形式で、教育課程について説明する。さらに、単元計画や学習指導案を試行的に作成することを内容に含む個別学習も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 教育課程の基本原則 1 3 教育課程の基本原則 2 4 学習指導要領 1 5 学習指導要領 2 6 教育課程と学習内容 1 7 教育課程と学習内容 2 8 新しいカリキュラム 1 9 新しいカリキュラム 2 10 カリキュラム開発 1 11 カリキュラム開発 2 12 単元計画と学習指導案の作成演習 1 13 単元計画と学習指導案の作成演習 2 14 授業についての質疑応答とレポートの提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
樋口直宏，林尚示，牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』，学事出版，2002年。		出席回数，授業時の学習態度，レポートによる総合評価。	

03年度以降	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程 4 教育課程編成の理論と方法(1) 5 教育課程編成の理論と方法(2) 6 教育課程編成の理論と方法(3) 7 学習指導要領と教育課程(1) 8 学習指導要領と教育課程(2) 9 学習指導要領と教育課程(3) 10 学習指導要領と教育課程(4) 11 新学習指導要領の検討 中学校 12 新学習指導要領の検討 高等学校 13 教育課程と評価 14 教育課程と学力問題 再考 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法 I	担当者	本多 喜三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語教授法に関する基礎知識は参考文献から得て欲しい。ここではドイツ語の初級文法で扱う主たる文法項目を取り上げて、その教授法を研究します。先ず受講生により思い通りに模擬授業を行ってもらい、問題点を議論します。「分かりやすい文法の教え方」を目指しますが、当然ながら「正解」はありません。与えられた条件の中で臨機応変に適切な教授法を工夫する能力を養うのが目的です。</p> <p>オリエンテーションで授業案の書き方や授業の進め方について話しますが、2回目の授業からは受講生による模擬授業を開始します。初回の授業で担当日を決めますので受講希望者は必ず出席して下さい。やむを得ず欠席する場合には予め知らせて下さい。</p> <p>模擬授業の実施時間は一人30分を予定していますが、受講生の人数によって変更する可能性があります。模擬授業の担当者は授業案(50分用)を作成して授業を行い、その他の受講生は生徒役を演じると共に、配布された授業評価用紙に記入して模擬授業の評価をします。記入した授業評価用紙は模擬授業の担当者に返却されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アルファベット・単語の発音 3. 人称代名詞・動詞の現在人称変化 4. 名詞の性・数・格と冠詞 5. 命令法・再帰動詞 6. 話法の助動詞 7. 動詞の3基本形・過去人称変化 8. 完了形 9. 受動態 10. 形容詞の格変化 11. 関係代名詞 12. 接続法の形態 13. 接続法 I の用法 14. 接続法 II の用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年 G.Neuner/H.Hunfeld: <i>Methoden des fremdsprachlichen deutschunterrichts</i> Langenscheidt 1993		模擬授業、授業案、出席状況、レポート等による。	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法 II	担当者	本多 喜三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教壇実習によりドイツ語教授法の具体的なテクニックを習得するのが目的です。秋学期にはドイツ語のコミュニケーション能力の養成を目的とする模擬授業をやってもらいます。</p> <p>受講生は1年次の総合ドイツ語 I で使用したテキスト(Schritte 1)を参考にして50分授業用の教材と授業案を作成して模擬授業を行います。春学期と同様に予め配布された授業評価用紙に記入して互いの授業を評価し合うだけでなく、一人30分(予定)の模擬授業の後に、10分の意見交換の時間を取ります。</p> <p>初回の授業で模擬授業の担当日を決めますので、受講希望者は必ず出席して下さい。やむを得ず欠席する場合には予め知らせて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 模擬授業による教授法の研究 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年 G.Neuner/H.Hunfeld: <i>Methoden des fremdsprachlichen deutschunterrichts</i> Langenscheidt 1993		模擬授業、授業案、出席状況、レポート等による。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

07年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語科指導に関わる教授法・学習理論・学習環境についてそれらの背景理論を習得することを目標とする。</p> <p>この授業では、まず教授法の歴史の変遷を辿りそれぞれの利点と欠点を明らかにする。次に学習者要因として第2言語発達の諸相を明らかにし、外国語学習への応用を検討する。さらに小学校での英語教育などの教育制度の課題や英語公用語化などの言語政策については是非を議論する。</p>		<p>第1回 第1言語習得過程：経験学習説、生得説</p> <p>第2回 第2言語習得過程：学習環境 (ESL/EFL), 年齢による習得差</p> <p>第3回 学習者の要因 (1)：性格・心理的傾向</p> <p>第4回 学習者の要因 (2)：動機付け</p> <p>第5回 学習者の要因 (3)：信念, アイデンティティー, コードスイッチング</p> <p>第6回 教授法の変遷 (1)：文法訳読法, 直説法</p> <p>第7回 教授法の変遷 (2)：オーディオリンガル法</p> <p>第8回 教授法の変遷 (3)：コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第9回 教授法の変遷 (4)：ナチュラル・アプローチ, 人間的アプローチ</p> <p>第10回 教授法の変遷 (5)：イマージョンプログラム</p> <p>第11回 教授法の変遷 (6)：Focus on form</p> <p>第12回 学習環境 (1)：e-ラーニング</p> <p>第13回 学習環境 (2)：早期英語教育</p> <p>第14回 学習環境 (3)：社会における英語使用 (バイリンガリズム, 公用語)</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>P. Lightbown & N. Spada, <i>How Languages Are Learned, 3rd ed.</i> (Oxford University Press, 2006; ISBN-10: 0194422240; ISBN-13: 978-0194422246)</p> <p>高梨庸雄・高橋 正夫『新・英語教育学概論』(金星堂, 2007; ISBN-13: 978-4764738423)</p> <p>H. D. Brown, <i>Principles of Language Learning and Teaching, 4th ed.</i> (Pearson, 2000; ISBN: 0130178160)</p> <p>D. Larsen-Freeman, <i>Techniques and Principles in Language Teaching, 2nd ed.</i> (Oxford University Press, 2000; ISBN: 0194355748)</p>		定期試験および授業時の課題	

07年度以降	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、英語科教育で広く求められるコミュニケーション型な学習活動および評価方法を自ら創造し指導できる技術を獲得することを目標とする。</p> <p>英語授業の各技能および領域にコミュニケーション型な学習活動を取り入れるための様々な方法論を実践的に学ぶ。コミュニケーション型な教材・テストの作成法を学ぶほか、グループワーク・ペアワークなどの教室内での課題学習活動の設計を行う。</p>		<p>第1回 学習者参加型の授業 第2回 発音の指導 第3回 語彙・辞書の指導 第4回 文法の指導 第5回 リスニングの指導 第6回 スピーキングの指導 第7回 リーディングの指導 第8回 ライティングの指導 第9回 科目横断型学習の指導 第10回 eラーニングによる学習指導および継続的学習指導 第11回 授業展開とシラバス・指導案 第12回 テスト作成と評価 (1): テストの作成法 第13回 テスト作成と評価 (2): テスト結果の集計と成績評価 第14回 テスト作成と評価 (3): フィードバック 第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高梨庸雄・高橋 正夫『新・英語教育学概論』(金星堂, 2007; ISBN-13: 978-4764738423) フランシス・ジョンソン/平田為代子訳『コミュニケーション型英語授業のデザイン』(大修館書店, 2000; ISBN: 4-469-24450-3) 笠島準一他 <i>New Horizon English Course 2</i> (東京書籍, 2008) 市川泰男他 <i>Unicorn English Course II</i> (文英堂, 2008)</p>		定期試験および授業時の課題	

07年度以降	英語科教科教育法Ⅲ	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語科指導における実践的対処能力向上を目標とする。</p> <p>受講者に対して指導項目の教授体験を提供する。模擬授業(ロールプレイを含む)を通してミクロ的およびマクロ的教授ストラテジーの習得訓練を行う。実技課題においては授業風景をビデオ録画し、ディスカッションの材料とする。また、実技のおよそ半分は英語を使っての指導に充てるものとする。受講者は常にジャーナルにより学習記録をつけることが求められる。</p>		<p>第1回 技能課題: Eye contact 実技課題: 授業計画立案 第2回 技能課題: Teacher talk 実技課題: 単元の導入 (1) 第3回 技能課題: Recast 実技課題: 単元の導入 (2) 第4回 技能課題: Scaffolding 実技課題: 課題のドリル (1) 第5回 技能課題: 課題要求の調節 (最小化および拡張) 実技課題: 課題のドリル (2) 第6回 技能課題: ペアワークとグループワーク 実技課題: 課題のドリル (3) 第7回 技能課題: プレゼンテーション 実技課題: 観察と対応 (1) 第8回 技能課題: Code switching 実技課題: 観察と対応 (2) 第9回 技能課題: 自立学習のための課題設定 実技課題: 総括および家庭学習 第10回 実技課題: 自由課題による模擬授業 (1) 第11回 実技課題: 自由課題による模擬授業 (2) 第12回 実技課題: 自由課題による模擬授業 (3) 第13回 実技課題: 自由課題による模擬授業 (4) 第14回 実技課題: 自由課題による模擬授業 (5) 第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Glyn S. Hughes, <i>A Handbook of Classroom English</i> (Oxford University Press, 1981; ISBN: 0194316335) 笠島準一他 <i>New Horizon English Course 2</i> (東京書籍, 2008) 市川泰男他 <i>Unicorn English Course II</i> (文英堂, 2008) P. Hubbard, H. Jones, B. Thornton, & R. Wheeler, <i>A Training Course for TEFL, 2nd ed.</i> (Oxford University Press, 1983; 0194327108) M. H. Long & J. Richards, <i>Methodology in TESOL: a Book of Readings, 2nd ed.</i> (Thomson, 1987; ISBN: 0838426956)</p>		授業時の課題	

03 年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	J.J.ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p> <p>We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based.</p> <p>As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course description. Assignment, reading. Week 2: Theme: The teaching situation. Lecture, discussion, assignment. Week 3: Theme: The role of the teacher. Lecture, discussion, reading. Week 4: Theme: The role of the school. Lecture, discussion, reading, assignment. Week 5: Theme: The role of the student. Lecture, discussion. Week 6: Theme: Testing and surveys. Lecture, discussion, presentations, assignment. Week 7: Theme: Testing. Lecture, discussion, reading. Week 8: Theme: How is language learned? Lecture, discussion, reading. Week 9: Theme: The history of language teaching. Lecture, discussion. Week 10: Theme: Approach and method--traditional. Lecture, discussion, handouts. Week 11: Theme: Approach and method--modern. Lecture, discussion, assignment, reading. Week 12: Planning a lesson. Lecture, discussion. Week 13: Miscellaneous items. Week 14: First semester summary and review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final assessment based on the handouts and lecture.	

03 年度以降	英語科教科教育法 II	担当者	J.J.ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class, built on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester.</p> <p>This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first semester, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p> <p>We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course Introduction, Decide presentation schedule Week 2: Teaching Grammar--Lecture, Activities Week 3: Teaching Grammar--Video Week 4: Teaching Grammar--Student presentations Week 5: Teaching Reading--Lecture, Activities Week 6: Teaching Reading--Student presentations Week 7: Teaching Writing--Lecture, Activities Week 8: Teaching Writing--Student presentations Week 9: Teaching Listening--Lecture, Activities Week 10: Teaching Listening--Student presentations Week 11: Teaching Oral Communication--Lecture, Activities Week 12: Teaching Oral Communication--Student presentations Week 13: Miscellaneous items, Make-up presentations Week 14: Course Review, Make-up presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i> . (Oxford Univ. Press.) Handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, a presentation, and a final paper.	

03年度以降	英語科教科教育法Ⅰ	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では中学高校の英語教員を目指す学生が知っておくべき外国語学習・教育に関する理論を幅広く取り上げる。また、学期を通して自分の英語教員としての専門性と成長について考え、振り返る場とする。授業はディスカッションやグループワークおよび英語を多用するので積極的な参加が必要となります。授業の内容や情報は講義支援システムに随時アップするので各自で必ず確認してください。</p> <p>=====</p> <p>3月31日（火）の免許課程の4年生対象及び3年生対象の各オリエンテーションにおいて「英語科教科教育法Ⅰ及びⅡ」の登録申請用紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き提出することになりますので必ず出席してください。詳しくは掲示を見て下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course 2. Reflection on language learning and teaching 3. Theoretical approaches and methods 4. Syllabus and teaching guidelines 5. Textbooks 6. Classroom management 7. Lesson planning (1) 8. Lesson planning (2) 9. Materials development 10. Testing and evaluation 11. Team teaching 12. Teaching young learners 13. Teaching global issues 14. Reflection and wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用		出席&授業への貢献度（30%）ジャーナル（30%）教案（20%）ポートフォリオ（10%）自己評価（10%）	

03年度以降	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では春学期に学習した理論を基に、模擬授業などの実践を中心とする。全員複数回の模擬授業、教案作成と再作成、ビデオ録画と自己評価、チュートリアル、グループワーク、ポートフォリオ作成などを通して自分の英語教員としての専門性と成長を振り返る。</p> <p>授業の内容や情報は講義支援システムに随時アップするので各自で必ず確認してください。</p> <p>=====</p> <p>3月31日（火）の免許課程の4年生対象および3年生対象の各オリエンテーションにおいて「英語科教科教育法ⅠおよびⅡ」の登録申請用紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き提出することになりますので、必ず出席してください。詳しくは掲示を見て下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, classroom language 2. Lesson planning 3. Individual presentations, Lesson planning 4. Individual presentations, Lesson planning 5. Micro-teaching 1 (Pair, one task) 6. Micro-teaching 1 7. Micro-teaching 1 8. Micro-teaching 2 (Group, one lesson) 9. Micro-teaching 2 10. Micro-teaching 2 11. Micro-teaching 2 12. Micro-teaching 2 13. Micro-teaching 2 14. Reflection and wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用		出席&授業への貢献度（30%）リフレクティブエッセイ（30%）模擬授業&教案（20%）ポートフォリオ（10%）自己評価（10%）	

03年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 日本における英語教育の最新事情やさまざまな課題を知るとともに、それらを解決する方法を文献講読や受講者間のディスカッションを通じて探っていく。 また、中学・高校の英語授業において効果的であると考えられる指導法や評価方法を、文献や授業映像から学ぶとともに、受講生にはそれらをより良くする改善案を考えてもらう。具体的な指導法のテクニック等を知ること、本授業の目的の一つである。</p> <p>[概要] 授業においては、「知る」→「考える」→「共有する」という一連の流れを重視する。 配布するプリントや紹介する書籍・授業映像を通じて、どのような英語教授法があるのかを知り、その長短所や改善点について受講生自らが積極的に考えることを期待する。そして、新しく知った教授法・評価法を実践できるようになることが望ましい。ただし、よりスキルを重視した「練習」は秋学期に集中的に行う。</p> <p>※ 受講定員が設けられているので注意すること ※ 3月31日のオリエンテーションに必ず参加すること</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス＋ビデオ鑑賞 2. 日本における英語教育の歴史 (1)：その変遷 3. 日本における英語教育の歴史 (2)：現状課題 4. 教授法 (1)：効果的な導入方法 (1) 5. 教授法 (2)：効果的な導入方法 (2) 6. 教授法 (3)：練習方法の種類 (1) 7. 教授法 (4)：練習方法の種類 (2) 8. 教授法 (5)：教科書の活用 9. 教授法 (6)：教科書外教材の活用 10. 教授法 (7)：メディア機器の活用 11. 評価方法 (1)：相対評価と絶対評価 12. 評価方法 (2)：絶対評価を行うために 13. 授業の組み立て方 (1)：カリキュラムとシラバス 14. 授業の組み立て方 (2)：指導案の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 望月昭彦編著，大修館書店</p>		<p>出席＋授業活動への参加度＋期末試験により評価する。 特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。</p>	

03年度以降	英語科教科教育法 II	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 中学・高校における一時間の英語の授業を実践できる知識と技能を身につける。</p> <p>[概要] 受講生による模擬授業 (micro-teaching) を中心に進めていく。 「テーマ」に則り、(1) 一時間分の授業の計画を立て、(2) 指導案を作成し、(3) その一部を授業内で披露する。模擬授業は全員が学期内に実施すること、指導案は最終レポートとして提出することが課せられる。 各模擬授業に対して、担当教員と受講生が感想、アドバイス等を与える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス＋ビデオ鑑賞 2. 授業の組み立て方：指導案の作成方法 3. グループによる模擬授業 (1) 準備 4. グループによる模擬授業 (1) 実践 5. グループによる模擬授業 (2) 準備 6. グループによる模擬授業 (2) 実践 7. グループによる模擬授業 (3) 準備 8. グループによる模擬授業 (3) 実践 9. 模擬授業 (1) 10. 模擬授業 (2) 11. 模擬授業 (3) 12. 模擬授業 (4) 13. 模擬授業 (5) 14. 模擬授業 (6) ＋まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用せず</p>		<p>出席＋授業活動への参加度＋模擬授業＋授業指導案により評価する。 特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。</p>	

03年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] これまでの言語教育における理論と実践方法の変遷をたどり、どのような試みがなされてきたかを概観し、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。</p> <p>[概要] 文法中心の考え方からコミュニケーション能力育成を重視した授業形態が求められているなど、近年、英語教育現場にさまざまな変化が生じている。学習者として自分が受けてきた英語教育方法とは違う考え方ややり方を理解し、対応できるようになるにはどうしたらよいか考える。</p> <p>講義やビデオ教材などにより、語学教育に関する基本的な考え方や指導方法を紹介する。また、実際に教材を作るなど実践的な面も取り入れていく。</p> <p><u>3月31日(火)の4年生および3年生対象の各教職課程ガダンスにおいて「英語科教科教育法」登録申請用紙を配布します。その場で登録希望クラスを第4希望まで書き、提出することになりますので、必ず出席して下さい。詳しくは掲示を見て下さい。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 授業の進め方、研究課題について 2. 日本における英語教育の変遷 3. 日本における英語教育の現状 4. Language Teaching Methodology (1) 5. Language Teaching Methodology (2) 6. Language Teaching Methodology (3) 7. 第二言語習得について 8. Audio-Visual Aids 9. Audio-Visual Aids 教材作成 10. Testing and Evaluation (1) 11. Testing and Evaluation (2) 12. Testing 教材作成 13. 学習指導案作成 (1) 14. 学習指導案作成 (2) 教案作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは定めないが、参考文献を授業中に紹介する。 大学 HP「授業」の Web ページも参照のこと。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0076/index.htm</p>		<p>授業回数の半分以上、遅刻せず出席することが必要。 平常点 10% 教材研究課題レポート 40% 期末試験 50%</p>	

03年度以降	英語科教科教育法 II	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 春学期の講義と実践を基に、授業一回分の指導案を作成し、その一部分を模擬授業として実践してみる。</p> <p>[講義概要] 模擬実習では1回分の授業の一部分を他の受講者を生徒に見立てて行うが、授業の全体像をまずしっかり捉えて欲しいので、video や DVD 教材を用いて1回分の授業の流れの組み立て方を学ぶ。</p> <p>その後、中学校または高等学校向けの学習指導案の作成とそれに基づく模擬実習を行う。実習とそれについての討議が中心となる。学期中の模擬実習の回数は、受講者数で変更することもある。</p> <p>また、<u>学外の公開研究授業</u>を見学し、そのレポートを提出してもらう。詳しくは、授業時に説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 春学期のレポートと答案返却 2. 指導法研究 (1) 3. 指導法研究 (2) 4. 模擬実習 ① 5. 模擬実習 ② 6. 模擬実習 ③ 7. 模擬実習 ④ 8. 模擬実習 ⑤ 9. 模擬実習 ⑥ 10. 模擬実習 ⑦ 11. 模擬実習 ⑧ 12. 模擬実習 ⑨ 13. 模擬実習 ⑩ 14. 模擬実習 ⑪、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは定めないが、必要に応じて参考文献を紹介する。</p>		<p>授業回数の半分以上、遅刻せず出席することが必要。 授業への参加度 10% 公開授業のレポート 30% 模擬授業 30% 期末レポート 30%</p>	

03年度以降	フランス語科教科教育法Ⅰ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 言語教育に携わっていく上で必要な基礎知識と教育実習に必要な事柄の習得。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と「これから」について考える。</p> <p><講義概要> フランス語教育の歴史の変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方などを紹介する。主に講義形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。講義内容をまとめたノートを各自作成すること。</p> <p><注意！> 必ず、教育実習を行う前年の3年次に履修すること。</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン</p> <p>3. 教案の書き方</p> <p>4. 言語教育における教授法の歴史の変遷 1</p> <p>5. 言語教育における教授法の歴史の変遷 2</p> <p>6. 教材分析 1</p> <p>7. 教材分析 2</p> <p>8. 教室活動 1</p> <p>9. 教室活動 2</p> <p>10. 教案と教室活動 1</p> <p>11. 教案と教室活動 2</p> <p>12. 授業実践のための準備とまとめ</p> <p>13. 評価について</p> <p>14. まとめ</p> <p style="text-align: right;">(順不同)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各テーマに応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。授業中の講義内容ノート、授業での発表、課題、レポート等での総合評価。	

03年度以降	フランス語科教科教育法Ⅱ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動の実際、授業を行う際の注意点や問題点などについて考える。</p> <p><講義概要> 毎回、学生による模擬授業を行う。 「教案作成→授業準備→授業実施→評価と反省 →次回克服する課題を決める→個別指導」 上記のような流れになる。短時間の模擬授業を各自数回行う予定。回数と持ち時間は受講者数によるので秋学期の最初の授業時に決める。</p> <p><注意！> 必ず、教育実習を行う前年の3年次に履修すること。</p>		<p>1. 導入：模擬授業のための準備と注意点</p> <p>2. 模擬授業</p> <p>3. 模擬授業</p> <p>4. 模擬授業</p> <p>5. 模擬授業</p> <p>6. 模擬授業</p> <p>7. 模擬授業</p> <p>8. 模擬授業</p> <p>9. 模擬授業</p> <p>10. 模擬授業</p> <p>11. 模擬授業</p> <p>12. 模擬授業</p> <p>13. 模擬授業</p> <p>14. まとめ：教育実習に行くまでに</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。模擬授業の教案と準備、模擬授業、反省・感想文、事後指導態度、注意点のまとめ、レポート等での総合評価。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。</p> <p>なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科教員の 1 日 2 社会科成立の背景と意義 3 社会科の教育課程とその変化 (1) 4 社会科の教育課程とその変化 (2) 6 社会科の教育課程とその変化 (3) 7 社会科の教育内容 (1) 地理的分野 8 社会科の教育内容 (2) 歴史的分野 9 社会科の教育内容 (3) 公民的分野 10 社会科の今日的課題 (1) 環境 11 社会科の今日的課題 (2) 国際化 12 社会科の今日的課題 (3) 情報化 13 社会科の今日的課題 (4) 人権 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための様々な技能を身につけることを目的とする。</p> <p>社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科の目標と身につけるべき力 2 学習と評価 3 講義式授業の特質 4 教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍 5 教材の収集と利用（2）視聴覚教材 6 教材の収集と利用（3）インターネット等 7 教材の収集と活用（4）ワークシートの作成 8 生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導 9 生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表 10 シミュレーション教材の利用 11 臨地学習の意義と計画 12 臨地学習の実践 13 学習指導計画と学習指導案 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成20年9月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。	

03年度以降	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校カリキュラムの中の社会科 2. 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3. 地理的分野の内容構成 4. 歴史的分野の内容構成 5. 公民的分野の内容構成 6. 学習指導案の作成と模擬授業の準備 7. 学習指導案の作成と 8. 模擬授業（1） 9. 模擬授業（2） 10. 模擬授業（3） 11. 模擬授業（4） 12. 模擬授業（5） 13. 模擬授業（6） 14. 評価問題の検討と学習評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成20年9月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	地理・歴史科教育法 I	担当者	鈴木 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育実習においては、学生であっても生徒の学習活動等に「教員」と同じような責任をもって業務を行わなければならない。そして、その基本は実際の授業をいかに構成しかつ実践するかにあると言える。授業をおろそかにすると生徒の信頼を獲得できない。本講座では、教員として授業を創っていく際に必要なバックグラウンドとしての理論的知識と授業を想定した実践的方法を明らかにし、教員としてのスキルアップをめざす。</p> <p>本講義では地理・歴史科の中でも必修科目に位置づけられている世界史を中心とした教科教育の方法を取り扱う。世界史教育の立場からアプローチしながら、歴史学と歴史教育の関連、世界史教育の意義、学習指導要領と世界史教育、教員としての資質やその研鑽方法、教材研究のあり方、学習指導案の作成方法、実際の授業づくりの事例などを取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史認識および歴史観 2. 歴史教育と世界史必修化の意義 3. 学習指導要領のねらいと改訂 4. 歴史教科書の編集 5. どのような教師をめざすか 6. 教材研究のあり方 7. 教材研究の実際 8. 授業をつくる 基礎編① 9. 授業をつくる 基礎編② 10. 授業をつくる 応用編① 11. 授業をつくる 応用編② 12. 授業をつくる 応用編③ 13. 世界史の新視点 14. 授業実践の事例研究 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業はパワーポイントを用いたプレゼン方式で行い、随時参考文献等は紹介する。</p>		<p>出席することが第一で、レポート（課題）の内容と合わせて総合的に評価する。途中、小論文課題を授業時間内で課す予定がある。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	地理・歴史科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。</p> <p>本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。</p> <p>* 高等学校「地理歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと 『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理教育の意義と目標 2. 日本の地理教育の歩み 3. 諸外国の地理教育 4. 現行および次期学習指導要領の特色 5. 地理的見方・考え方について 6. 地図・地球儀の扱い方（1） 7. 地図・地球儀の扱い方（2） 8. 野外観察・調査の意義と計画 9. 野外観察の実践 10. 系統地理の学習指導 11. 地誌の学習指導 12. 主題的方法の学習指導 13. 学習指導計画と学習指導案 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』参考文献は授業中に示される。		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	地理・歴史科教育法Ⅲ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を考察し討論することを通じて、教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史を学ぶこと・教えること① 2. 歴史を学ぶこと・教えること② 3. 歴史研究と歴史教育① 4. 歴史研究と歴史教育② 5. 学習指導要領と教科書叙述① 6. 学習指導要領と教科書叙述② 7. 授業実践事例研究① 8. 授業実践事例研究② 9. 授業実践事例研究③ 10. 授業実践事例研究④ 11. 学習指導案の作成① 12. 学習指導案の作成② 13. 学習指導案の作成③ 14. まとめ <p>なお、上記の計画は受講者の人数や授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。高等学校の学習指導要領と地理・歴史科の指導書は各自が用意すること。</p>		<p>授業への参加状況とレポートなどを総合的に評価する。状況に応じて簡単な小レポートを課すこともある。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	公民科教育法Ⅰ	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会科・公民科教育の歴史的変遷を通して、公民科教育の意義・目的と課題について考察する。また、「高等学校学習指導要領解説公民編」を活用して、公民科の目標と科目編成、内容とその取り扱い、指導計画の作成と指導上の配慮事項について考察するとともに、具体的に公民科の授業づくりについて検討する。</p> <p>テキストや配布プリント等を活用して講義中心の授業を行うが、公民科教育にかかわる今日的な話題や課題等については、討論会やディベート等を行う機会を持つことも考えている。</p>		<p>1 社会科・公民科教育の変遷</p> <p>①社会科の成立と意義</p> <p>②社会科教育の変遷と公民教育</p> <p>③社会科教育の再編成と公民科の創設</p> <p>2 11年版「学習指導要領公民」の研究</p> <p>④公民科の目標</p> <p>⑤～⑧公民科各科目の内容とその取り扱い</p> <p>⑨公民科各科目の指導計画の作成と指導上の配慮事項</p> <p>⑩公民科各科目にわたる内容の取り扱い</p> <p>3 授業実践演習Ⅰ</p> <p>⑪学習指導案・評価問題の作成</p> <p>⑫～⑭公民科各科目の授業づくり</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版		レポートまたは定期試験、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降	公民科教育法Ⅱ	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育現場での先進的な授業実践に触れるとともに、公民科各科目の学習指導案に基づいた模擬授業を行い、公民科教育における実践的な指導力を養うことを目指している。</p> <p>公民科教育法Ⅱでは、公民科の授業における実践的な力量形成を図ることが目的なので、受講生の意欲的な授業参加、取り組みを期待する。</p> <p>なお、現職教員による示範授業を予定しているので公民科教育にかかわる現状や課題等についても積極的に発言し、自らの公民科の授業づくりに生かしてほしい。</p>		<p>1 公民科の指導法</p> <p>①指導計画の作成と授業展開</p> <p>②学習指導の工夫</p> <p>③評価の工夫</p> <p>2 授業実践演習Ⅱ</p> <p>④～⑤授業実践事例研究</p> <p>⑥～⑭模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版 参考書 魚山・小泉他編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院		レポート、学習指導案、模擬授業、評価問題、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 情報科成立の背景 3 普通教科「情報」の目的 4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5 専門教科「情報」の目的 6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7 情報科教材研究（1）普通教科「情報」 8 情報科教材研究（2）普通教科「情報」 9 情報科教材研究（3）普通教科「情報」 10 情報科教材研究（4）普通教科「情報」 11 情報科教材研究（5）普通教科「情報」 12 情報科教材研究（5）専門教科「情報」 13 情報科教材研究（6）専門教科「情報」 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。</p> <p>なお、先進校授業参観については、参観先の都合等により日時をかえて行なう場合がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3 「情報」学習指導の実際（授業見学） 4 「情報」学習指導の実際（授業見学） 5 「情報」学習指導の実際（授業見学） 6 学習指導案の作成 7 学習指導案の作成 8 学習主導案の作成 9 模擬授業（1） 10 模擬授業（2） 11 模擬授業（3） 12 模擬授業（4） 13 模擬授業（5） 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、中学校における各教科の指導法に関する学習をさらに発展させるために、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。 そのうえで、今日の教科教育の重要な課題である、各教科の関連づけを図った教科横断的な学習指導についての理解を深めるために、いくつかのグループに分かれ、総合的学習との関連を図った教科学習の学習指導案を作成する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力とは何か 2 中学校教育の教育課程 3 教科と総合的な学習 4 クロス・カリキュラムの作成(1) 5 クロス・カリキュラムの作成(2) 6 クロス・カリキュラムの作成(3) 7 クロス・カリキュラムの作成(4) 8 クロス・カリキュラムの作成(5) 9 クロス・カリキュラムの作成(6) 10 クロス・カリキュラムの作成(7) 11 クロス・カリキュラムの作成(8) 12 クロス・カリキュラムの作成(9) 13 作成した学習指導案の発表・検討(1) 14 作成した学習指導案の発表・検討(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席 (7割以上、厳守のこと)、グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価	

03年度以降	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教科教育法特論 II	担当者	J.J.ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will be taking a different approach to teaching. Rather than simply study in dry textbooks about classroom teaching methods and techniques, we will be reading a book written by a teacher for teachers, a book detailing the teacher's teaching beliefs and experiences on teaching, teachers, and students.</p> <p>In addition, we will observe, through the use of video, three inspirational films detailing the teaching experiences of three teachers, their attitudes towards students and teaching, and the techniques they employed in the classroom to improve the learning of their students.</p> <p>By linking these two learning resources, it is hoped that the students in this class will gain a clearer and better understanding of what it means to be a teacher, of teaching, and of students.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course introduction, pre-reading activities. Week 2: Reading activities, pre-viewing activities. Week 3: Video Ia, assignment Week 4: Video 1b, assignment Week 5: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 6: Reading activities, pre-viewing activities. Week 7: Video IIa, assignment Week 8: Video 1Ib, assignment Week 9: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 10: Reading activities, pre-viewing activities. Week 11: Video IIIa, assignment Week 12: Video 1IIb, assignment Week 13: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 14: Consolidation & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment.	

03 年度以降	教科教育法特論 II	担当者	J.J.ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

07年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語科指導に必要な教員の英語運用力向上を目標とする。</p> <p>教育現場での各技能および領域における指導項目を対象として、教師としての資質を高めるための訓練を行う。授業では実際の指導場面を想定し、モデル提示の後、ペアもしくはグループによる共同学習活動を行う。受講者は常にジャーナルにより学習記録をつけることが求められる。また、<i>Net Academy</i> による eラーニングを併用する。</p>		<p>第1回 英語教師に求められる言語運用能力</p> <p>第2回 発声</p> <p>第3回 発音（文節音素 1, IPA）</p> <p>第4回 発音（文節音素 2, IPA）</p> <p>第5回 発音（超文節音素）</p> <p>第6回 語彙・形態素</p> <p>第7回 文法（修飾・統御）</p> <p>第8回 文法（文型 1）</p> <p>第9回 文法（文型 2）</p> <p>第10回 文法（文型 3）</p> <p>第11回 文法（時制・相・態・法）</p> <p>第12回 文法（指示・代用・省略）</p> <p>第13回 談話（構成）</p> <p>第14回 談話（ステラテジー）</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高橋作太郎、『英語教師の文法研究』（大修館書店，1983；ISBN: 4469141526）</p> <p>M. A. K. Halliday & R. Hasan, <i>Cohesion in English</i> (Longman, 1976；ISBN-13: 978-0582550414)</p>		小テストおよび授業時の課題， <i>Net Academy</i> による到達度評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 本講義は、①道徳に関する歴史、②昨今の教育改革における道徳の位置づけと大きくわけて2つの「理論編」の講義と、指導案を作成し、模擬授業を行う、という「実践編」の2つの柱で構成される。これらを通じて、道徳教育に関する実践力を身につけることを目的としている。</p> <p>●講義概要 上記のように前半における理論編では講義中心で行う。後半の指導案作成・模擬授業においてはグループをつくり、実際に自身で教材を探し、「道徳の時間」を構成する。 受講人数によるが、いくつかのグループは実際に模擬授業を行う予定である。</p>		<p>1 講義に関するガイダンス 2 ～高校における道徳教育必修化をどう考えるか 3 道徳教育の歴史① 4 道徳教育の歴史② 5 道徳教育の歴史③ 6 小テスト&解説、グループ分け 7 指導案をつくる 8 指導案を検討する 9～14 模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。参考文献は授業中に指示する。		小テスト、レポート、指導案作成、模擬授業の際の出席状況を総合的に評価する。	

03年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	道徳教育の研究	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、児童生徒の社会性やモラルの低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において「いのち」のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の道徳教育体験を振り返る 2 道徳とは何か(1) 3 道徳とは何か(2) 4 学校教育における道徳教育の位置と役割(1) 5 学校教育における道徳教育の位置と役割(2) 6 新教育課程における道徳教育の課題 7 「いのち」の教育とは何か 8 「いのち」を考える授業(1) 9 「いのち」を考える授業(2) 10 「いのち」を考える授業(3) 11 学習指導案の作成(1) 12 学習指導案の作成(2) 13 模擬授業(1) 14 模擬授業(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領 解説 道徳編』『心のノート 中学校』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（7割以上）、厳守のこと、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 08年度以降	特別活動 特別活動論（総合政策学科学生）	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格、歴史の変遷等について考察するとともに、「中学校学習指導要領解説特別活動編」を中心に、「特別活動」の目標や内容、指導計画の作成と内容の取り扱い等について具体的に検討する。また、「特別活動」の内容に関する具体的な進め方や今日的な課題への対応等について検討し「特別活動」に関する実践的な指導力を養うことを目的とする。</p> <p>テキスト、配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、実践演習の場面では研究班を編成してディベートやディスカッション、ロールプレイングなどを活用して、実践的な指導力を養う機会を持つ予定である。</p>		<p>1 特別活動の意義</p> <p>①学校教育と特別活動</p> <p>②特別活動の歴史の変遷</p> <p>2 特別活動の目標と活動内容</p> <p>③特別活動の目標と基本的性格</p> <p>④特別活動の指導計画・指導案の作成及び評価</p> <p>⑤学級(ホームルーム)活動の目標と活動内容</p> <p>⑥生徒会活動の目標と活動内容</p> <p>⑦学校行事の目標と活動内容</p> <p>3 特別活動の実践演習</p> <p>⑧学級(ホームルーム)活動の指導と展開</p> <p>⑨生徒会活動の指導と展開</p> <p>⑩学校行事の指導と展開</p> <p>⑪部活動の指導と展開</p> <p>⑫～⑭ ・不登校問題への取り組み ・いじめ問題への取り組み</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文科省『中学校学習指導要領解説特別活動編』ぎょうせい 参考文献 山口満編『特別活動と人間形成』学文社</p>		<p>学習指導案、レポートまたは定期試験、出席状況等で総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 08年度以降	特別活動 特別活動論（総合政策学科学生）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、児童生徒の人間関係の希薄化、集団離れ、社会性の低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教科、道徳とともに教育課程の一領域を構成する特別活動の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>特別活動は、戦後教育の初期から、民主主義に基づく学校教育の重要な教育内容として計画され、実践されてきた。本講では、学校教育の大幅な改革が求められている今日において、子どもたちの自主的、実践的、集団的な活動である特別活動がますます重要な意味をもってくるとの認識に基づいて、それが児童期や青年期の人間形成においてどのような役割をもっているのか、その役割を十分に果たすためには児童・生徒の諸活動をどのように組織し、指導することが望ましいのか等の問題について検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の特別活動体験を振り返る 2 現代の人間形成と特別活動(1) 3 現代の人間形成と特別活動(2) 4 教育課程における特別活動の位置と役割(1) 5 教育課程における特別活動の位置と役割(2) 6 児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(1) 7 児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(2) 8 新学習指導要領における特別活動の実践課題 9 特別活動の実践事例の検討(1) 学級活動 10 特別活動の実践事例の検討(2) 生徒会活動 11 特別活動の実践事例の検討(3) 学校行事 12 話し合い活動の実践(1) 13 話し合い活動の実践(2) 14 学習指導案の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口満編著『新版特別活動と人間形成』学文社、文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 特別活動編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

03年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学習目標：教育職の重要性を再検討し、自身のコミュニケーション能力を確認する。</p> <p>概要：コミュニケーション、教育・学習、教師の役割などを関連させながら、各自の教育方法のイメージを描けるよう支援する。併せて、グループによる討議やレポートを作成する。</p> <p>※詳細は開講時に明示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：講義概要説明 2. コミュニケーションと教育・学習 3. 教師の役割 4. 授業を問いかける 5. 視聴覚メディアと教育 6. ビデオ教材による教育現場 7. 校外専門家による授業 8. グループ討論 9. 授業設計 10. 測定と評価 11. 教育方法のイメージ 12. 言語と画像の比較 13. 実践活動：ゲーム 14. エピローグ：まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐賀啓男編著（2009）『視聴覚メディアと教育』樹村房、¥1,800		出席、個人レポート、グループレポート、定期試験の総合	

03年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、今日の学校教育、とりわけ授業の構成と展開をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 毎日の授業をどのように工夫したらよいのか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる実際の授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の授業体験を振り返る 2 授業とは何か 3 教育実習生の授業 4 ベテラン教師の授業 5 教材研究とは何か(1) 6 教材研究とは何か(2) 7 教材研究の事例の検討(1) 8 教材研究の事例の検討(2) 9 教材研究の事例の検討(3) 10 教材研究とメディア 11 新教育課程と授業 12 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(1) 13 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(2) 14 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席 (7割以上、厳守のこと)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育機能の一つである生徒指導、教育相談、進路指導・キャリア教育などに関する基本的原理について学ぶ。また、生徒指導、進路指導上の今日的諸課題についての検討を通して、課題解決に向けての具体的な方策を考えるとともに、実践への心構えや指導の在り方等について学習することにする。</p> <p>配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、講義内容によってはディベートやディスカッション、事例研究プレゼンテーションなど、さまざまな学習形態で実践的な指導力を養うことを目指す。</p>		<p>① 生徒指導の意義と機能、 ② 生徒指導の歴史の変遷 ③ 青年期と生徒理解 ④ 生徒指導の方法原理 ⑤ 生徒指導の進め方(個別指導と集団指導) ⑥ 生徒指導体制と外部機関との連携 ⑦ 生徒指導と教育課程 ⑧ 生徒指導と懲戒処分 ⑨ 在り方生き方教育と進路・キャリア教育 ⑩～⑪生徒指導に関する実践研究 ・規律指導と自治 ・学級経営と生徒指導 ⑫～⑭生徒指導に関する事例研究 ・飲酒・喫煙問題 ・いじめ・暴力問題 ・性非行と薬物濫用問題</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 文科省『生徒指導の手引き』、『学校における教育相談の考え方・進め方』、『キャリア教育推進の手引き』		事例研究、プレゼンテーション、レポートまたは定期試験、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生徒指導法	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>生徒指導法は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での生徒指導上の課題について分析及び検討ができる力。 ・学校で生徒指導を担当するための方法及び技術。 <p>講義概要</p> <p>テキスト『新編生徒指導読本』を使用し、講義形式で、生徒指導の理論と方法について説明をする。さらに、生徒指導の計画案を試行的に作成することを内容に含む個別学習も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 生徒指導の意義と機能 3 生徒指導と社会性の育成 4 生徒指導生徒指導と対人関係能力の育成 5 子どものストレスマネジメント 6 生徒指導とゼロトレランスの指導 7 生徒指導と特別活動との関連 8 人権教育と生徒指導の関連・充実 9 生徒指導と学校の危機管 10 生徒指導の充実を図る教員研修 11 子どもの問題行動の傾向と特徴 12 暴力行為への対応 13 不登校への対応 14 授業についての質疑応答とレポートの提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
有村久春編『新編生徒指導読本』教育開発研究所、2007年		出席回数、授業時の学習態度、レポートによる総合評価。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校場面で必要とされるガイダンスとカウンセリングの知識・技術を講義する。また学校という場の特徴を知り、そこで教育相談全般および教職員相互の連携について、特に多く見られる諸問題、例えば、不登校・いじめ・集団不適応的行動などについて、個々の事例を分析・検討しながら、その効果的対処法を考える。カウンセリングの技術に関しては、適宜実習を行う。</p> <p>必要に応じて、グループディスカッションやテープやビデオを用いた実習を行ない、単なる理論についての知識だけでなく、教育相談の技法やカウンセリングの応答についての技法を習得する。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：学校カウンセリングとは 第3回：学校という場の特徴 第4回：学校における教育相談 第5回：教職員相互の連携について 第6回：カウンセリングとガイダンスの方法 第7回：カウンセリングの基礎と応用（1）日常会話とカウンセリングでの会話 第8回：カウンセリングの基礎と応用（2）応答の技法 第9回：不登校の事例検討（1）小学生の事例 第10回：不登校の事例検討（2）中学生の事例 第11回：いじめの事例検討（1）孤立したケース 第12回：いじめの事例検討（2）グループ内で起きたケース 第13回：その他の問題（1）親や家族の問題 第14回：その他の問題（2）発達障害 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。その都度、必要なプリントを配布する。		授業中に与える小課題や実習レポートなどから評価する。	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。</p> <p>さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。</p> <p>また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：グループ・ワーク 第3回：教育相談とは何か 第4回：教育相談の内容 第5回：養護教諭、学校医の役割 第6回：スクールカウンセラーの役割 第7回：カウンセリングの目的とその意義 第8回：カウンセリングの理論と技法 第9回：学校カウンセリングの目的と特徴 第10回：学校カウンセリングの方法 第11回：中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回：生徒の問題行動 第13回：生徒の精神衛生 第14回：心理テストの理論と実際 第15回：全体のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解を深め、資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>授業回数に限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。</p> <p>講義のほか、ロールプレーやVTR・テープ視聴等を併用する。</p>		<p>第1回：この授業の目標と進め方 第2回：学校・生徒の現状とカウンセリングの必要性 第3回：カウンセリングとは 第4回：カウンセラーの役割、教師の役割 第5回：生徒理解と援助のポイント(1)：「不登校」を考えるワーク（理解と対応） 第6回：生徒理解と援助のポイント(2)：「いじめ」その他の諸問題 第7回：カウンセリングの実際(1)：紙上応答実習（「合格できるかなあ」「友達がいらないんです」） 第8回：カウンセリングの実際(2)：良い面接と問題のある面接（テープを聞く） 第9回：カウンセリングの理論と技法(1)：諸理論の人間観と治療目標・技法の比較 第10回：カウンセリングの理論と技法(2)：諸理論に共通する基本的技法（傾聴、応答、反映、他） 第11回：学校カウンセリングと心理テスト 第12回：キャリアカウンセリングの基礎 第13回：保護者への援助：コンサルテーション 第14回：校内組織その他の利用と連携 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2 各グループにおける学習テーマの設定(1) 3 各グループにおける学習テーマの設定(2) 4 グループ研究(1) 5 グループ研究(2) 6 グループ研究(3) 7 グループ研究(4) 8 グループ研究(5) 9 グループ研究(6) 10 グループ研究(7) 11 グループ研究(8) 12 グループ研究(9) 13 グループ研究の評価と反省(1) 14 グループ研究の評価と反省(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p>出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価。*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>急速なグローバル化の進展にともない、学校現場も「国際」と無関係ではいられなくなっている。海外を扱うだけではない、真の国際化とは何かについて考えるとともに、総合的な学習の時間で扱う方法を考え、模擬授業を行うことが目的である。</p> <p>授業計画をみるとわかるように、講義形式ではなく、グループ作業を中心に進める形である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 国際理解とはなにか 3. ～6 グループワーク 7. ～8 発表 9. グループワーク 10. ～14. 模擬授業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		テスト、レポート、出席状況などを総合的に評価する。 *春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること	

03年度以降	総合演習	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<p>授業計画</p> <p>第1回：総合演習の意義とねらい、グループ分け 第2回：学習テーマの設定(1) テーマ概要の決定 第3回：学習テーマの設定(2) テーマの絞り込み 第4回：グループ研究(1) 問題・目的の設定 第5回：グループ研究(2) 調査方法の検討 第6回：グループ研究(3) 予備的調査 第7回：グループ研究(4) 問題・目的の再検討 第8回：グループ研究(5) 本調査によるデータ収集 第9回：グループ研究(6) データの分析 第10回：グループ研究(7) 分析結果のまとめ・考察 第11回：研究成果の発表(1) 前半 第12回：研究成果の発表(2) 後半 第13回：グループ研究の相互評価 第14回：グループ研究の反省 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p>出席、グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価 *春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 総合演習は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類に共通する課題や我が国社会全体にかかわる課題を分析及び検討できる力。 ・生徒を指導するための方法及び技術。 <p>講義概要 生徒指導および教育課程を例にとり、演習形式で、学習指導案や教材を試行的に作成することを内容に含むグループ学習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義，ねらい，グループ分け 2 各グループのテーマ設定 3 各グループでのテーマ研究 4 生徒指導グループ1の構想発表 5 教育課程グループ1の構想発表 6 生徒指導グループ2の構想発表 7 教育課程グループ2の構想発表 8 各グループでのテーマ研究1 9 各グループでのテーマ研究2 10 生徒指導グループ1の最終発表 11 教育課程グループ1の最終発表 12 生徒指導グループ2の最終発表 13 教育課程グループ2の最終発表 14 レポート集の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>有村久春編『新編生徒指導読本』教育開発研究所，2007年。 樋口直宏，林尚示，牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』，学事出版，2002年。</p>		<p>出席回数，授業時の学習態度，レポートによる総合評価。*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	

03年度以降	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2 各グループにおける学習テーマの設定(1) 3 各グループにおける学習テーマの設定(2) 4 グループ研究(1) 5 グループ研究(2) 6 グループ研究(3) 7 グループ研究(4) 8 グループ研究(5) 9 グループ研究(6) 10 グループ研究(7) 11 グループ研究(8) 12 グループ研究(9) 13 グループ研究の評価と反省(1) 14 グループ研究の評価と反省(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p>出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価。*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	

03年度以降	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。授業の概要：</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p> <p>本講義では主にレクリエーションな活動を通して、良好な人間関係の構築とコミュニケーション能力の育成をテーマとする。</p> <p>特に獨協大学の総合演習の特徴として、春または秋に実施する合宿自然体験学習を実施する。学生に野外における小グループでの直接体験学習の機会を与え、学生の自然体験活動経験を増加させ、その過程で起こる人間関係を含む課題解決の場を提供し、現実には指導場面で起こりうる状況を解決する能力の育成に役立てることを目的にしている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義とねらい 2 アイスブレイキングを目的とした活動 3 コミュニケーションを目的とした活動 4 集団形成を目的とした活動 5 リーダーシップについての討論 6 屋外レクリエーション活動（ペタンク） 7 グループ分けとグループごとの指導計画の作成 8 イベント計画の立て方とグループによる企画打合せ 9 グループによる企画の完成 10 学生グループによる指導体験 グループ 1 11 学生グループによる指導体験 グループ 2 12 学生グループによる指導体験 グループ 3 13 学生グループによる指導体験 グループ 4 14 指導の評価とふりかえり 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布		出席状況、取り組み姿勢、レポート *春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 授業を見る(3) 6 授業を見る(4) 7 授業のスキル 8 授業の評価 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 模擬授業(3) 14 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席 (8割以上、) 厳守のこと、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教職課程教育のまとめであり、最大の関門でもある「教育実習」について、その意義と目的、内容と実際について学ぶ。また、学校教育が抱えている今日的な課題や教育改革の動向について検討し、それを踏まえた指導の在り方や進め方を考察するなど、教育実習の事前指導としての役割が十分果たせるよう工夫したい。したがって、教育課題の解決に向けた検討会を実施したり、教科指導や生徒指導に関する実践演習を行うなど、受講者中心の授業になるので主体的で意欲的な授業参加を期待する。</p>		<p>1 教育実習の意義 ①教育実習の意義と目標 ②教育実習の形態</p> <p>2 教育実習の内容 ③学校運営組織と校務分掌 ④生徒理解と生徒指導 ⑤教育課程と学習指導要領 ⑥学習指導と教材研究 ⑦道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導</p> <p>3 教育実習の実際 ⑧~⑪実践演習(学習・生徒・進路指導における場面指導) ⑫教師としての勤務と実習生</p> <p>4 現代の教育課題と教師 ⑬~⑭学校教育の課題と教師の役割</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』 獨協大学		レポート、実践演習、出席状況等で総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に、教育実習の意義（教職課程上の位置付け等）を講義し、教育実習の実際を、実習を終えた四年生から学びます。これを通じて、実習をむかえる心構えと準備を確かなものにします。</p> <p>第二に、実習校種別にグループを作って、四年生の援助の下に、模擬授業を行います。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点などを、きめ細かく学びます。</p>		<p>1～3回 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6回 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14回 校種別模擬授業実施</p> <p>15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』。</p> <p>その他は、講義の中で紹介します。</p>		出席と、作成した教案等を参考にします。試験は行いません。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1～3においては、教育実習の意義（教職課程上の位置付け等）を講義し、教育実習の実際を学ぶ。これを通じて、実習をむかえる心構えと準備を確かなものにする。</p> <p>4～13では、教科・実習校種別にグループを作って、模擬授業を行う。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点などを、きめ細かく学ぶ。</p>		<p>1～3 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14 校種別模擬授業実施</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学『教育実習の指針』		模擬授業、指導案、授業への貢献等を評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅰ（事前指導）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 授業を見る(3) 6 授業を見る(4) 7 授業のスキル 8 授業の評価 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 模擬授業(3) 14 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（8割以上、）厳守のこと、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 近年の教育改革の現状と課題 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 模擬授業(3) 14 模擬授業(4) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（8割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に、実習校や実習の交流を行い、学校による違いや反省点を明確にします。</p> <p>第二に、これから実習を迎える三年生を対象として、実習の実際を伝えていきます。</p> <p>第三に、三年生が行う校種別の模擬授業を指導し、教案の作成の仕方、授業準備の仕方等を教えます。また、実習に関する最新の注意を与えます。このことを通じて、自らの実習を詳しく振り返るとともに、指導の仕方や教え方そのものを学ぶことができます。</p>		<p>1～3回 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6回 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14回 校種別模擬授業実施</p> <p>15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習日誌』。</p> <p>その他は、講義の中で紹介します。</p>		<p>出席と、指導して作成した教案等を参考にします。</p> <p>試験は行いません。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育実習の事後指導として教育実習の反省とフォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、教育実習の反省を通して、教育実習の体験に基づいた教職に対する各自の資質向上の課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図る。</p>		第1回：教育実習体験の発表 第2回：実習レポートの作成 第3回：服務の実態 第4回：生徒指導の実態 第5回：学級経営の実態 第6回：教科学習指導の改善 第7回：補助教材や教育機器の活用 第8回：学習指導におけるコミュニケーション能力 第9回：授業評価 第10回：実習指導案の修正 第11回：学習指導案の作成(1) 第12回：学習指導案の作成(2) 第13回：模擬授業(1) 第14回：模擬授業(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学「教育実習の指針」、文部科学省「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説 総則編」 参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 この講義は、すでに教育実習を終えた学生を対象に、教育実習の振り返りをするを目的としている。</p> <p>●講義内容 おもに1～3ではグループになり、①授業編、②生活指導編、③その他で教育実習を振り返る。他校に行った学生の指導案や日誌を見ることで自身との共通点や差異を見つけ、ディスカッションする。 4～6ではそれらのディスカッションを踏まえ、指導案を作成し、互いの授業の工夫などについても再度ディスカッションを行う。 7～14にかけては、そこで作成した指導案について、模擬授業を行う。</p>		<p>1～3 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14 校種別模擬授業実施とまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学『教育実習の指針』 実習日誌		レポート、出席や授業への貢献等を評価する	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 近年の教育改革の現状と課題 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 模擬授業(3) 14 模擬授業(4) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（8割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

03年度以降	介護ボランティアの理論と実践	担当者	小川 孔美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代において「介護」は、今まさに必要とする個人にとってだけでなく、現在健康である個人にとっても、その長い人生のなかで「介護」を必要とする時期、「介護」について考える時期がどこかにあるとあってよい。「介護」の本質と理念、制度、対人援助の構造などの基礎概念をふまえたうえで、「介護」を必要とする個人のニーズについて理解を深め、さらに実際に生かすことのできる具体的な援助方法、対応のあり方について学ぶ。</p> <p>本講義では、今後教職課程における「介護等体験」を履修する際、また「介護」を必要とする個人と接する際に必要となる基礎的知識及び実践可能な援助について理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の「介護」をとりまく様々な事象についてー 2. 「介護」の歴史、定義 ー人間の尊厳とはー 3. 「介護」をとりまく制度・政策（1）ー日本国憲法、社会福祉関係法令ー 4. 「介護」をとりまく制度・政策（2）ー介護保険制度とは何かー 5. 生活を「支える」ー生活の必要（ニーズ）とその充足の構造ー 6. 生活の視点から考える介護技術 7. 車椅子の基本操作と援助の実際 8. 体位変換、移動の介護と褥瘡予防 9. 食事の介護と胃瘻の知識 10. 認知症の理解と介護 11. コミュニケーションの重要性、回想法 12. 在宅介護とチームアプローチケアマネジメントとは 13. 介護する人を介護する 14. 介護において必要とされるボランティアー今、あなたができることー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に適宜紹介する。		出席状況、授業中に課す小レポート及び期末レポート（または試験）により評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	日本史概説 I	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的な捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況をふまえ、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料に着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。</p> <p>極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。</p> <p>高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ的に—日本とは？歴史とは？— 2. 日本における歴史研究の歴史—史学史①— 3. 日本における歴史研究の歴史—史学史②— 4. 古代の社会—弥生のムラとクニ①— 5. 古代の社会—弥生のムラとクニ②— 6. 古代の社会—ワカタケル大王の時代— 7. 古代の社会—律令制の形成と展開— 8. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界①— 9. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界②— 10. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く①— 11. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く②— 12. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く③— 13. 中世から近世へ① 14. 中世から近世へ② <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で随時紹介する。高等学校の日本史の教科書または日本歴史に関する概説書が手元があれば参考になる。</p>		<p>試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに、総合的に評価する。</p>	

03年度以降	日本史概説 II	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本史概説 I に続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて、現代の国際化社会における日本のあり方、さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代・中世の自国認識と他国認識① 2. 古代・中世の自国認識と他国認識② 3. 古代・中世の自国認識と他国認識③ 4. 日本型華夷秩序の形成・展開① 5. 日本型華夷秩序の形成・展開② 6. 「鎖国」論をめぐって① 7. 「鎖国」論をめぐって② 8. 近代の対外認識① —「近代」と「他者」へのまなざし— 9. 近代の対外認識② —「近代」と「他者」へのまなざし— 10. 国民国家論とは 11. 博覧会・博物館と国民国家① 12. 博覧会・博物館と国民国家② 13. 博覧会・博物館と国民国家③ 14. まとめ（エピローグ的に） —こんにちの歴史学・歴史教育の課題— <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で随時紹介する。高等学校の日本史の教科書または日本歴史に関する概説書が手元があれば参考になる。</p>		<p>試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに、総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	外国史概説 I	担当者	兼田 信一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、最初に最近の中国事情と中国の地理的・風土的特徴を概観した後、新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史的展開を、おもに農村社会の変化を軸に概観する。</p> <p>中国農村に注目するのは、そこに最近の中国の急激な経済発展の歪みが最も鮮明な形で現れているからである。その上、今後の中国にとって農村や農業のかかえる問題は、その存亡に関わる重要な問題であるにもかかわらず、中国農村の特質は十分に解明されたとは言いがたいからである。</p> <p>講義では、前近代中国社会の特質を知るうえで欠かせない中国農村社会の成立期のありようを見ることで、中国社会を理解する一助としてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1, オリエンテーション 2, 現代中国事情（地理的概況など） 3, 中華文明の形成（新石器時代～殷周） 4, 氏族社会の崩壊と小農民の登場（春秋戦国時代） 5, 皇帝支配の成立と郷里社会（秦漢帝国時代） 6, 豪族の成長と郷里社会の変質（後漢時代） 7, 新集落の成立とその特徴（三国・晋時代） 8, 少数民族の侵入と社会の変化（南北朝時代①） 9, 農民支配の再編（南北朝時代②） 10, 中国社会の再統一（隋・唐帝国時代） 11, 唐と東アジア諸国との関係（唐帝国②） 12, 唐朝律令制支配の特質とその崩壊 1（唐帝国③） 13, 唐朝律令制支配の特質とその崩壊 2（唐帝国④） 14, 歴史展開から見た中国社会と国家の特質 	
テキスト、参考文献		評価方法	
堀敏一著『中国通史』講談社 その他講義中に配布するプリント・資料をテキストにする。参考文献も講義中に紹介する		出席状況と筆記試験（記述その他、持ち込み不可）で評価する	

03年度以降	外国史概説Ⅱ	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西欧における「近代化」過程の歴史を社会・文化・経済・宗教等の側面から考察する。「近代化」の特質とその功罪を検証し、明治以降のわが国にいかなる影響を与えてきたか、という点もあわせて論じたい。20世紀は科学技術の比類なき発展と、それに連なる「物質文明」の頂点を極めた時代であった。しかし、今日では「精神的豊かさ」へ価値観の中心が大きく転換しつつあることを誰もが実感している。</p> <p>人類が抱えている諸問題は数多く、しかも難問ばかりである。本講義がそれらを解決する為の糸口のひとつとなることを願っている。</p> <p>また、免許課程の講座(地歴)であることを考慮し、時事問題を適宜取り上げ、問題意識の啓発・構築に供したいと考えている。</p> <p>テキストは特に指定しないが、下記の参考文献は本講義を理解する上で役に立つと思われる。</p> <p>・大下尚一／西川正雄／服部春彦／望田幸男編『西洋の歴史(近現代編)』【増補版】(ミネルヴァ書房) ・望田幸男編『西洋の歴史基本用語集』(ミネルヴァ書房)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 歴史叙述・歴史理論の変遷(古代～中世) 3. 歴史叙述・歴史理論の変遷(近代以降) 4. 同上 5. 「近代」の概念について 6. 市民革命～英仏両革命の比較 7. 同上 8. 産業革命～その「魔力」と社会的諸矛盾、社会主義の台頭など 9. 同上 10. 帝国主義と世界再分割～経済的諸矛盾の「武力による打開」と「差別意識」について考える 11. 同上 12. 「近代」総括 13. 同上 14. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上記の参考文献を参照。 また、高校世界史教科書及び、図録なども座右に置くことが望ましい。</p>		<p>試験を実施する。＜論述形式、ノート持込不可＞ 出席状況も加味する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	地理学概説 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。</p> <p>本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。 *講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。 色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。 *中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する。)</p> <p>『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション (講義の概要) 2.地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識 3.地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形 4.地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む 5.東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6.東京・関東の地形的特色(2)台地 7.東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8.東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9.東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10.東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール、気候と景観、観測とデータ 11.東京・関東の気候的特色(2)山地の気候・平野の気候 12.東京・関東の気候的特色(3)海岸の気候・内陸の気候 13.東京・関東の気候的特色(4)都市気候と気候の変化 14.まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート (小課題)、出席状況	

03年度以降	地理学概説 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。</p> <p>本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。</p> <p>*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.地理学の歴史 (1) 2.地理学の歴史 (2) 3.地理学の歴史 (3) 4.地理学の主要概念 (1) 環境 5.地理学の主要概念 (2) 景観 6.地理学の主要概念 (3) 場所と立地 (1) 7.地理学の主要概念 (4) 場所と立地 (2) 8.地理学の主要概念 (5) 場所と立地 (3) 9.地理学の主要概念 (6) 伝播 10.地理学のトピックス (1) メンタルマップ 11.地理学のトピックス (2) 時間地理学 12.地理学のトピックス (3) 地理情報システム 13.地理学のトピックス (4) 教育と地理 14.まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート (小課題)、出席状況	

03年度以降	地誌学概説 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。</p> <p>*講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。</p> <p>*地図帳を持参すること。</p> <p>*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する)</p> <p>『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション—地誌学とは 2. 「地域」の概念 3. 地域分析の基礎 (1) 文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎 (2) 統計の利用 5. 地域分析の基礎 (3) 統計の地図表現 6. 地域分析の基礎 (4) 空間分析 7. 地域分析の基礎 (5) 地域構造 8. 日本地誌 (1) 自然環境と風土 9. 日本地誌 (2) 歴史的背景と地域文化 10. 日本地誌 (3) 人口分布と人口構造 11. 日本地誌 (4) 産業と地域変容 (1) 12. 日本地誌 (5) 産業と地域変容 (2) 13. 日本地誌 (6) 交通・通信と地域 14. 日本地誌 (7) 地域構造と地域区分 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート (小課題)、出席状況	

03年度以降	地誌学概説 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、アメリカを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>*地図帳を持参すること。</p> <p>*中学校「社会」高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する)</p> <p>『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容 (1) 自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容 (2) 文化圏 4. 世界の地域構造とその変容 (3) 国家と経済 5. アメリカ地誌 (1) アメリカとは 6. アメリカ地誌 (2) 自然景観 7. アメリカ地誌 (3) 歴史的背景 8. アメリカ地誌 (4) 人口と社会 9. アメリカ地誌 (5) 産業と経済 (1) 10. アメリカ地誌 (6) 産業と経済 (2) 11. アメリカ地誌 (7) 産業と経済 (3) 12. アメリカ地誌 (8) 産業と経済 (4) 13. アメリカ地誌 (9) 都市と生活 14. アメリカ地誌 (10) アメリカと世界 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート (小課題)、出席状況	

03年度以降	法律学概説 I	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法学及び憲法の基礎について学ぶ。</p> <p>講義は、法、法律、裁判とは何か、という基本から行い、具体的な裁判制度、各種法律についても触れる。受講者には、憲法、法律、権利、契約、裁判といった法律的概念について具体的なイメージを掴んでもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 法とは何か。 2 私法と公法 3 法と裁判 4 憲法と法律 5 憲法の原理 6 憲法：人権（1） 7 憲法：人権（2） 8 憲法：人権（3） 9 憲法：統治機構（1） 10 憲法：統治機構（2） 11 憲法：統治機構（3） 12 憲法上の諸問題 13 憲法上の諸問題 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合は平常点も加味する。	

03年度以降	法律学概説 II	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に続き、法について学ぶ。後期は、民事や刑事の具体的な事件を題材として、法と裁判について学習する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 民事法概説 2 民事事件（1） 3 民事事件（2） 4 民事事件（3） 5 刑事法概説 6 刑事事件（1） 7 刑事事件（2） 8 刑事事件（3） 9 行政法概説 10 行政事件（1） 11 行政事件（2） 12 憲法訴訟（1） 13 憲法訴訟（2） 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合は平常点も加味する。	

03 年度以降	政治学概説 I	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代社会における政治のメカニズムを理解するために、日本の政治を例に挙げながら、その分析の仕方や評価を紹介する。それを通して自分なりの政治を見る視点を養ってほしい。</p> <p>春学期は、日本の政治社会のシステムを構成する諸要素とそのメカニズムを学び、近現代日本の政治システムの構造変化を捉える視点を身につける。</p>		<ul style="list-style-type: none"> (1) 政治とはなにか (2) 政治のアクター (3) 官と民 (4) 大企業と政治 (5) 選挙 (6) 国と地方 (7) マスメディアと政治 (8) 国会 (9) 内閣 (10) 官庁と官僚 (11) 明治憲法と明治国家体制 (12) 戦前の政治体制 (13) 日本国憲法と戦後政治体制 (14) ポスト戦後体制 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 雨宮昭一『占領と改革』岩波新書(岩波書店,2008) (参考文献は講義の中で、適宜紹介する.)</p>		出席とレポートと期末試験	

03 年度以降	政治学概説 II	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代社会における政治のメカニズムを理解するために、日本の政治を例に挙げながら、その分析の仕方や評価を紹介する。それを通して自分なりの政治を見る視点を養ってほしい。</p> <p>秋学期は、過去 200 年の政治の世界の変容を民主主義の展開という観点から捉え直し、現代における民主主義の課題と可能性を考える</p>		<ul style="list-style-type: none"> (1) 国家 (2) 主権 (3) 国民 (4) 自由主義 (5) 民主主義 (6) 社会主義 (7) 国民国家と福祉国家 (8) 冷戦構造とポスト冷戦構造 (9) 大衆化と民主主義 (10) 組織化と民主主義 (11) ジェンダーと民主主義 (12) グローバル化と民主主義 (13) 国内政治と国際政治 (14) 国際政治と民主主義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 森 政稔『変貌する民主主義』ちくま新書(筑摩書房,2008) (参考文献は講義の中で、適宜紹介する)</p>		出席とレポートと期末試験	

03年度以降	社会学概説 I	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会的視点、社会的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会的な視座とは 2. 社会学の歴史(1)——A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史(2)——E.デュルケム 4. 社会学の歴史(3)——M.ウェーバー 5. 社会の類型(1)——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型(2)——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の類型(3)——第一次集団 8. Identity形成と社会(1)——鏡に映った自己 9. Identity形成と社会(2)——重要な他者 10. Identity形成と社会(3)——マージナル・マン 11. Identity形成と社会(4)——未定 12. 補完的アイデンティティについて(1) 13. 補完的アイデンティティについて(2) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G.ジンメル『社会学の根本問題(個人と社会)』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣</p>		出席とレポート(履修者多数の場合、期末試験を行う)	

03年度以降	社会学概説 II	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 「社会」問題と社会的視座(1) 8. 「社会」問題と社会的視座(2) 9. 予言の自己成就——R.K.マートン 10. 誇示的消費——T.ヴェブレン 11. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー 12. 文化的再生産——P.ブルデュー 13. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群衆』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか</p>		出席とレポート(履修者多数の場合、期末試験を行う)	

03年度以降	哲学概説 I	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。</p> <p>個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的 position などを重視して論じる。</p> <p>春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。</p>		1 哲学とは何か (1) 2 ソクラテス以前 3 ソクラテス 4,5,6 プラトン, アリストテレス, 7 スコラ哲学 8 科学革命 9 ルネサンスと宗教改革 10 合理論と経験論 (1) 11 合理論と経験論 (2) 12 合理論と経験論 (3) 13 社会契約説 14 啓蒙主義	
テキスト、参考文献		評価方法	
『西洋哲学史』熊野純彦編著 岩波新書 (全2冊) 「古代から中世へ」及び「近代から現代へ」 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	哲学概説 II	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。</p> <p>(春学期に同じ)</p>		1,2,3 カント、ドイツ観念論 4 キルケゴール 5 マルクス 6 ニーチェ 7,8 フッサール・ハイデッガー・ヤスパース 9 歴史主義・解釈学 10 新カント学派と新ヘーゲル主義 11 ウィトゲンシュタイン 12 構造主義 13 言語哲学 14 哲学とは何か (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『西洋哲学史』熊野純彦編著 岩波新書 (下巻のみ) 「近代から現代へ」(テキストは4月にのみ販売する) 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	倫理学概説 I	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>倫理学概説 I では、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代中国の倫理思想（老子、荘子、孔子、孟子） 2. 古代中国の倫理思想（告子、墨子、荀子、韓非子） 3. 古代ギリシャの倫理思想（ソクラテス、プラトン、アリストテレス） 4. 古代ギリシャ、ローマの倫理思想（エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス） 5. 中世の倫理思想（アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス） 6. ディスカッション（人間とは何か） 7. 宗教と倫理（仏教倫理と儒教倫理） 8. 宗教と倫理（キリスト教倫理とイスラム倫理） 9. 近世の倫理思想（デカルト、ホブズ、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン） 10. 近世の倫理思想（ヒュームとカント） 11. 近世の倫理思想（カント） 12. 均整の倫理思想（ヘーゲルとケルケゴール） 13. ディスカッション（人間として何をすべきか、幸福と自然） 14. まとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

03年度以降	倫理学概説 II	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもたらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎にある生命倫理についての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の倫理思想（儒学と明治思想と和辻哲郎） 2. 進化論と倫理思想（ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス） 3. ニーチェとニヒリズム 4. 私と汝（ブーバーと西田幾多郎） 5. 社会主義倫理と資本主義倫理 6. ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか） 7. 自然科学と倫理 8. 技術と倫理 9. 医療と倫理 10. 環境と倫理 11. 環境と倫理 II 12. 自然と人間 13. ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか） 14. まとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

03年度以降	宗教学概説 I	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。</p> <p>そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。</p> <p>前期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。</p> <p>春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。</p>		<p>1 宗教とは何か (1)</p> <p>2 神話と宗教</p> <p>3 ユダヤ教</p> <p>4 キリスト教 (1)</p> <p>5 キリスト教 (2)</p> <p>6 キリスト教 (3)</p> <p>7 イスラム教 (1)</p> <p>8 イスラム教 (2)</p> <p>9 イスラム教 (3)</p> <p>10 ヒンドゥ教 (1)</p> <p>11 ヒンドゥ教 (2)</p> <p>12 仏教 (1)</p> <p>13 仏教 (2)</p> <p>14 仏教 (3)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界がわかる宗教社会学入門』橋本大三郎著 筑摩書房 (1,800円＋税) 文庫版はテキストと認められない。文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	宗教学概説 II	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。</p> <p>秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。</p>		<p>1,2,3 儒教, 道教</p> <p>4 日本の宗教の歴史と現在 (1)</p> <p>5 日本の宗教の歴史と現在 (2)</p> <p>6 日本の宗教の歴史と現在 (3)</p> <p>7 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など) (1)</p> <p>8 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など) (2)</p> <p>9 宗教団体の諸問題 (1)</p> <p>10 宗教団体の諸問題 (2)</p> <p>11 宗教団体の諸問題 (3)</p> <p>12 学校教育と宗教 (1)</p> <p>13 学校教育と宗教 (2)</p> <p>14 宗教とは何か (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界がわかる宗教社会学入門』橋本大三郎著 筑摩書房 (1,800円＋税) 文庫版はテキストと認められない。テキストは4月にのみ販売する。文献は随時紹介		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	心理学概説 I	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：科学としての心理学とは・ 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格理論 8. 性格の形成 9. ストレス①：ストレスと性格 10. ストレス②：ストレス・コーピング 11. ストレス③：ストレスの生理心理学 12. 現代社会とこころの病① 13. 現代社会とこころの病② 14. 生きがいとこころの健康 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		出席、小レポート、試験により評価する。	

03年度以降	心理学概説 II	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらのことを通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。同時に、自己理解を深めてもらいたい。心理検査やグループワークを実践した後は、結果などをレポートにまとめてもらおう。また、関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともある。</p> <p>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費(1,700円程度)を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。</p>		<p>授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の成り立ちと種類 2. 質問紙による性格検査① 3. 質問紙による性格検査② 4. ストレス・コーピング 5. 絵からみる家族像 6. 知能検査 7. 感情指数 8. 職業興味 9. 仕事と自己理解 10. 将来の夢 11. グループ・ワークによる自己理解① 12. グループ・ワークによる自己理解② 13. グループ・ワークによる自己理解③ 14. 検査結果のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。		各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生涯学習概論	担当者	倉持 伸江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 生涯学習についての基本的な考え方や、具体的展開について学び、現代社会に生きる私たち一人ひとりにとって、生涯学習がどのような意味を持つのかについて共に考えることを目的にしています。また、生涯学習を実現するために必要な「主体的な学び」「協働」について、概念的・実践的に理解し、他者とかかわりながら生涯にわたって主体的に学ぶ力を獲得することをめざします。</p> <p>【講義概要】 生涯学習・社会教育について、理念、政策、方法、実践などさまざまな側面から理論的に概観します。また、生涯学習の現状と課題に焦点をあて、生涯学習活動の展開とその支援のありかたについて具体的・実践的に理解します。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：生涯学習の理念 第3回：日本の生涯学習政策 第4回：発達段階と発達課題 第5回：成人学習者の特性 第6回：成人学習者の特性を活かした学習支援 第7回：生涯学習の方法1 第8回：生涯学習の方法2 第9回：人権教育と生涯学習 第10回：男女共同参画社会における生涯学習 第11回：高齢社会における生涯学習 第12回：学校・家庭・地域の連携と生涯学習 第13回：生涯学習における支援者の役割1 第14回：生涯学習における支援者の役割2 第15回：ふりかえりとまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
関口礼子・小池源吾ら著『新しい時代の生涯学習』有斐閣、2005年。		出席、提出物、学期末試験によって行う	

03年度以降	図書館概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。</p> <p>書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。</p> <p>概論であるので、「図書館サービス論」「図書館資料論」などでさらにテーマを深めて学習することになるが、どの科目でもオーバーラップする部分がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と図書館 2. 出版文化と図書館 3. 図書館と著作権 4. 図書館の自由 5. 図書館の法的基盤 6. 図書館財政策 7. 地域社会と図書館 8. 公共図書館 9. 学校図書館 10. 大学図書館 11. 専門図書館 12. 国立図書館 13. 図書館の歴史 14. 海外の図書館 	
テキスト、参考文献		評価方法	
塩見昇編『図書館概論 新訂版』日本図書館協会発行、2008 ¥1800		授業参加、課題、定期試験で総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	図書館サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公共公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何かや図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。</p> <p>受講者がそれぞれ利用者として体験してきた図書館活動を考えながら、整理して、サービス対象にあわせた内容の目的や効果など評価していく。</p> <p>できるだけ図書館を見学しておくことと授業内容が理解しやすい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに。図書館の法的基盤と社会的意義 2 図書館サービスの意義 3 来館者へのサービス ー貸出、利用援助などー 4 資料提供の基礎 5 資料提供の展開 ー著作権法と図書館ー 6 情報提供ーレファレンス・サービス(参考調査業務)ー 7 情報提供 利用者のニーズ ビジネス情報提供など 8 集会・文化活動、行事など 9 利用対象者別サービス 10 多様な利用者サービス 11 利用者の交流の場としての図書館 12 図書館マーケティング活動 13 図書館サービスと図書館員・司書 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『図書館サービス論』日本図書館協会発行		授業参加、課題、定期試験によって評価する。	

03年度以降	図書館経営論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公共図書館を中心としての図書館運営・経営についての概論である。事例研究をもとに議論していく。近年の図書館をめぐる法的基盤や財政施策、地方自治体の社会教育政策をおさえながら、資料管理・施設設備管理、人的資源管理をめぐる課題を考える。</p> <p>多くの図書館では、人材派遣や契約職員、アルバイト、ボランティアなどの人々が働いている。正職員であったとしても、必ずしも司書有資格者とは限らない。したがって、司書有資格者の主な仕事は資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容にシフトしており、そのための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕が求められている。そのため、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディとして学習しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。</p> <p>事例研究ではグループでの議論が中心となり、また積極的な発言がもたれられるため、授業参加は必須となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会と図書館の情報戦略 2. 企業の経営理論と図書館経営 3. 公的セクターの経営理論と図書館経営 4. 図書館法政策 5. 図書館経営の実態 統計からみた図書館経営 6. 地方自治体の図書館政策 都道府県の場合 7. 地方自治体の図書館政策 市町村の場合 8. 財政と図書館経営 9. 建築、施設・設備ーPFIや委託の問題ー 10. 人事管理ー専門職の役割と委託などの問題ー 11. 資料管理 12. 事業計画策定 13. ネットワーク 14. 海外の図書館経営 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に指示する。		授業参加（事例研究報告を含む）、課題で評価する。定期試験は実施しない。	

03年度以降	情報サービス論 a	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらにはCD-ROMやオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。</p> <p>【概要】図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。より具体的には授業計画を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 受講者の確認。授業方法等について説明。 2 情報サービスの概要と実際（ビデオ鑑賞等） 3 レファレンスサービス 4 利用案内、レフェラルサービス 5 カレントアウェアネスサービス、検索サービス 6 最新の情報サービス(1) 7 前半部分のまとめ。質問受付。 8 発展的情報サービス 9 情報サービスで用いる情報源の類別 10 レファレンスコレクションの構築・評価 11 情報サービスにおけるコミュニケーション 12 最新の情報サービス(2) 13 最新の情報サービス(3) 14 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報サービス論b	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館活動の基本は資料提供である。利用者の求めに応じて、多様な形態の資料を提供し、情報を提供する。このサービス活動のひとつがレファレンス・サービスである。利用対象者をとわず、あらゆる質問や調査、資料・情報探索への迅速かつ適確な対応を可能とするのが、専門職たる司書の使命である。この科目では司書になるためのレファレンス・サービスの実習である。幅広い教養と専門知識・探索技術に裏付けられたサービス活動である。</p> <p>最近では地域産業活性化のためにビジネス情報提供に特化したレファレンスサービスや、陪審員制度をきっかけとしての法律情報提供、高齢化社会にともなう健康情報提供、調べ学習や総合的な学習といったこどもたちの自律的学習活動のための支援といったテーマ別のレファレンスサービスも盛んとなっている。この科目では「やおよろず何でも調べます」司書を養成する。毎回、図書館の参考図書を利用しての情報探索演習をおこなう。授業参加は必須である。毎週、課題を提出してもらう。</p> <p>なお、この科目は「情報サービス論a」の実習科目であるので、この科目をすでに履修しているものとみなしている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに。「情報サービス論a」の復習。 2 質問の分析技術と情報探索技術 3 情報源の探索 4 新聞記事の探索 5 雑誌記事の探索 6 出版情報の探索 7 統計資料の探索 8 歴史・地理分野情報の探索 9 ビジネス分野情報の探索（1） 10 ビジネス分野情報の探索（2） 11 法律分野情報の探索 12 健康情報の探索 13 外国語での情報探索 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示する。毎回、課題を配布する。図書館全体が教科書と心得ること。		授業参加（毎回の課題提出）で評価する。	

03 年度以降	情報検索演習	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、WWW の検索エンジンや CD-ROM データベース、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション；情報検索の概要 2 情報検索の種類と歴史 3 データベース 4 図書館で利用できるデータベース (1) 5 索引語 6 シソーラス 7 前半部分のまとめ；質問受付 8 情報検索関連作業のプロセス 9 検索式 (1) 10 検索式 (2) 11 検索結果の評価 12 図書館で利用できるデータベース(2) 13 CD-ROM 検索 14 授業のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報検索演習	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報検索の基本的理論を学び、実習する。</p> <p>まず、情報検索システムで、情報の入手、主題分析、検索キーの作成、索引、データベースといった諸項目と、情報要求、検索式、シソーラスの利用、索引との照合、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。</p> <p>検索式の解説では、ブール演算子を用いた情報検索の表現方法を、またシソーラスについてはその構成と目的を、さらに実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。</p> <p>実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムできるだけ活用する。CD-ROM を使用したオフライン検索では練習用の J-BISC による実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス： 情報検索とは 2 情報検索(1)：情報検索システム 3 情報検索(2)：情報検索の理論と検索結果の評価 4 データベース(1)：データベースと情報検索 5 データベース(2)：データベースシステムと諸項目 6 インターネットの情報検索(1)：検索エンジン 7 インターネットの情報検索(2)：Web 情報の探し方 8 インターネットの情報検索(3)：リンク集の作り方 9 検索実習(1)：図書の検索 10 検索実習(2)：雑誌・新聞記事の検索 11 検索実習(3)：人物・企業・団体情報の検索 12 検索実習(4)：法律・統計・特許情報 13 ディスク検索：J-BISC など 14 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田、江草、小山、沢井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ6、樹村房、2007(3訂)		2～3 回程度のレポートおよび出席、期末試験を総合的に評価する。	

03年度以降	図書館資料論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。</p> <p>書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館資料の定義 2 図書館における知的自由 3 図書館における検閲・焚書 4 印刷資料メディア 5 視聴覚資料メディア 6 触覚資料メディア 7 立体資料メディアなど 8 電子資料メディア 9 灰色文献 10 出版・流通・販売 11 図書館資料コレクション形成方針 12 コレクション形成の実務 13 資料の更新・保存・廃棄 14 メディア転換など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
馬場俊明編 『図書館資料論』日本図書館協会発行、2008		授業参加、課題、定期試験で総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	専門資料論	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 大学図書館、医学医療、法律、ビジネス支援、文化芸術の分野で専門主題を扱う主題情報専門家への期待がある。</p> <p>「専門資料論」では、さまざまな主題分野における特有な専門資料の種類、記述様式、内容などを知り、それらを実際に使いこなせることを目標としたい。</p> <p>(概要) この授業では主として人文科学、社会科学、自然科学等の諸分野における多様な図書館活動を知るとともに、それぞれの分野における特色ある情報・資料の多様性と、その記述形式、活用法等について学ぶ。 また、学生が専攻する専門領域に特有な専門資料とレファレンス・ツールと学術的インターネット情報資源についても調査し、ゼミテーマや卒業論文に関係する情報源を選別する方法を学ぶ。</p> <p>グループ学習と研究発表を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 専門資料の定義と構造及び種類 3. 学術情報の連環と情報へのアクセス行動 4. 医学医療情報 5. 音楽情報 6. 美術情報 7. 法律情報 8. 経済情報 9. 文学情報 10. 異文化情報 11. グループ研究発表(1) 12. 同(2) 13. 専門分野におけるサブジェクト・リエゾンの養成 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「新訂 専門資料論」(東京書籍、2004) 適宜プリントを配布する。		出席(30%)、課題レポート(30%)、最終課題(40%)による総合的評価を行う。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	資料組織概説	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 図書館が扱う情報資料（図書、雑誌、視聴覚資料、電子資料、インターネット情報資源等）の内容や主題を文字情報や記号によって代替し、アクセスを組織化する理論と技術を学ぶ。</p> <p>(概要) 図書館が扱う媒体に記録されている情報や資料を一定の基準でデータ化する方法を学ぶ。 物理的実体のある情報媒体にアクセスする手がかりである「記述目録法」や「主題目録法」に関する理論と技術を学ぶ。さらに物理的実体の無いインターネット情報資源の記録法についても触れる。 以上について、伝統的な理論と技術とともに情報が電子化されインターネットが拓いたグローバルな情報世界における情報の記録化の国際的動向についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報・資料の組織化とは 2. OPAC（オンライン公開目録）データベースの内容 3. NCR（日本目録規則）による書誌情報の記録化 4. NCRによる書誌情報へのアクセス 5. NCRの限界と対応（書誌階層、書誌コントロール） 6. NDCと主題からのアクセス 7. NDC（日本十進分類法）による主題分析と主題目録 8. BSH（基本件名標目表）による主題からのアクセス 9. 資料組織化と書誌ユーティリティ 10. インターネット情報資源の保存と組織化 11. インターネット情報資源とメタデータ 12. 情報・資料へのアクセスとパスファインダ 13. 情報・資料の組織化、国際的動向 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「資料組織概説 新訂版」柴田正美著 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ9) 適宜プリントを配布する。</p>		出席（30%）、課題提出（30%）、最終レポート（40%）により総合的に評価する	

03 年度以降	資料組織演習	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 「資料組織概説」の履修を前提として、NCR（日本目録規則）による情報・資料の記述目録の作成、NDC(日本十進分類表)による主題目録の作成及び解読によって、資料・情報組織化の基礎技術を習得する。 また、ダブリンコア・メタデータ記述要素を使って、インターネット情報資源のデータベース化に関する基礎技術を習得する。</p> <p>(概要) 図書、マルチメディア等の情報・資料について、NCR(日本目録規則)の記述目録を作成する。 また、それらの情報・資料に書き込まれた主題を分析的に読み取り、その主題を NDC（日本十進分類法）を用いて主題目録を作成する。 インターネット情報資源について、DCMI の記述要素を適用してメタデータ・データベースを作成する。 図書館における情報・資料の組織化の実務について、見学・実習等を通して学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 情報・資料組織化に関する基礎知識の再確認 3. NCRによる記述目録法（1） 4. 同（2） 5. 同（3） 6. NDCによる主題目録法（1） 7. 同（2） 8. 同（3） 9. BSH（基本件名標目表）による主題目録法 10. 図書館における情報・資料の組織化（見学研修） 11. インターネット情報資源の組織化（1） 12. 同（2） 13. 同（3） 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「資料組織演習 新訂版」(JLA 図書館情報学テキストシリーズ10) 吉田憲一、野口恒雄編著。 適宜プリントを配布する。</p>		出席（30%）、課題提出（40%）、最終課題（30%）により総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	児童サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目ではおおむね年齢別利用対象者別におこなわれている公共図書館活動について、現状を把握し、将来的な戦略的運営計画を策定可能になることを目的とする。</p> <p>読書しないといわれる(でも実際は読んでいるが・・・)子どもやヤングアダルトと称せられる10代の図書館利用者(潜在的利用者)に対する戦略的で効果をあげるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐える内容を考えられる専門職としての児童・YA担当司書を養成することを目的とする。</p> <p>幅広く、多くの児童書やYA向け資料を読んでもらうことになる。また、発達心理や読書心理、児童文化やYA文化、社会問題などについての研究書などについても読んでもらうことになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに。図書館における児童・YAサービスとは何か？ 2.地域社会における「子ども」のイメージは何か？ 3.児童YA資料 4.乳幼児サービス 5.小学校など児童対象の図書館サービス 6.中学校や高校など10代のヤングアダルト対象の図書館サービス 7.児童・YA図書館活動の歴史 8.子どもをとりまく大人への図書館活動 9.アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由 10.図書館活動をめぐる諸問題－法律と政策、インターネットなど－ 11.実際の図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など 12.児童やYA向けの図書館建築における設備など 13.児童・YA図書館活動における現状と将来 14.まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義時に提示する。かなり多くの児童・YA資料を読んでもらうことになる。		出席と課題で評価する。定期試験は実施しない。	

03 年度以降	図書及び図書館史	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大きくわけて3つの分野について講義する。</p> <p>まず、図書館資料の歴史、特に「本」の歴史と社会文化史との関わりについて講義する。特にヨーロッパ文化史の流れのなかで、「本」が果たした役割について述べる。紙など書写材料と「本」に記述され伝達される内容の変遷をコミュニケーション史の面から分析して講義する。また、この流れのなかで成立した近代的な図書館の発達史についても講義する。高校で世界史を学んでいない受講者は講義開始までにヨーロッパ史の概略について自己学習しておくこと。『図説世界史』（東京書籍刊）などがわかりやすい。ほかにも世界史について概略している本を1冊読んでおくことと授業内容がわかりやすいだろう。</p> <p>つぎに、現代的な公共図書館発達の歴史を、世界ではじめて税金で運営しはじめたアメリカでの例を中心として学ぶ。なぜ公立図書館は無料で利用できるのか？</p> <p>最後に日本での図書館発達史を特に明治以降の時期を中心として講義する。</p> <p>映画「薔薇の名前」「ベルリン天使の詩」「華氏451度」を大学図書館で見ておくことと理解が深まるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに。 2. 本・情報と歴史 3. 図書館の「本」とは何か。多様な書写材料と図書館 4. 図書館の歴史 <ul style="list-style-type: none"> －図書館建築の歴史、文房具の歴史、書架の歴史、分類・目録の歴史、図書館員の歴史など－ 5. アレクサンドリア図書館からヨーロッパ中世の図書館 6. 産業革命と市民社会、近代公共図書館 7. アメリカでの図書館－学校図書館から公共図書館へ－ 8. 公共図書館の誕生 9. 戦争と図書館 10. 日本での図書館前夜 11. 日本の図書館誕生－明治・大正・昭和前期－ 12. 現代日本市民社会の図書館 13. 情報流通と図書館の歴史 14. 図書館の未来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に指定する。		授業参加、課題、小テストで評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	資料特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、多様な資料・情報が集積され利用される。公共図書館の実践に基づき、郷土資料・行政資料・視聴覚資料などの各資料の特質を論じ、収集・整理・利用・保存等について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、図書館資料の種類Ⅰ 2、図書館資料の種類Ⅱ 3、寄贈資料・寄託資料 4、新聞・雑誌 5、郷土資料 6、自作郷土資料 7、行政資料・観光パンフレット 8、視聴覚資料 9、自作視聴覚資料・絵画・写真 10、地図・電話帳・図録・楽譜 11、子どものための資料・大型紙芝居等 12、図書館利用に障害のある人のための資料・多文化サービス 13、県立図書館・国立国会図書館の資料 14、まとめ、小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。 ちばおさむ著『図書館長の仕事』日本図書館協会 2008 ちばおさむ等著『図書館の集會・文化活動』同上 1993 ちばおさむ著『本のある広場』教育史料出版会 1992</p>		<p>レポート 50%・小テスト 25%・出席状況 25%</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>・講義概要：社会的、文化的コミュニケーションの概念を理解し、コミュニケーション・リテラシー発展・応用を中心に、現代におけるコミュニケーションの特性とその概要について理解する。</p> <p>・講義概要：①コミュニケーション・プロセスにおける構成要素とその連鎖 ②言語・非言語コミュニケーション ③コミュニケーション理論の応用</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：講義概要説明 2. コミュニケーション・モデル：その1 3. コミュニケーション・モデル：その2 4. コミュニケーション・モデル：その3 5. 言語と非言語：その1 6. 言語と非言語：その2 7. 言語と非言語：その3 8. マズローの三角形 9. ジョハリの窓 10. イノベーションの普及過程 11. グループ討議 12. グループ・プレゼンテーション 13. グループ・プレゼンテーション 14. エピローグ：まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献リストを配付する。その中からトピックに関連するページをコピーして使用する。		出席回数／個人レポート／グループ発表とレポート／筆記試験	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	図書館特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、「図書館は成長する有機体である」(ランガナタン著『図書館学の五法則』)ともいわれる。公共図書館の実践に基づき、「土地の事情及び一般公衆の希望に沿い」(図書館法第三条)の視点で、図書館における今日的な課題について取り上げ解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、日本の図書館概観Ⅰ 2、日本の図書館概観Ⅱ 3、日本の図書館概観Ⅲ 4、図書館と戦争責任の問題 5、職場の話し合いと仕事の改善 6、文庫活動 7、図書館の集会機能Ⅰ 8、図書館の集会機能Ⅱ 9、図書館活動への住民参加 10、図書館評価 11、複合問題 12、委託問題 13、コミュニケーションを大切に 14、まとめ・小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。 ちばおさむ著『図書館長の仕事』日本図書館協会 2008 ちばおさむ等著『図書館の集会・文化活動』同上 1993 ちばおさむ著『本のある広場』教育史料出版会 1992</p>		レポート 50%・小テスト 25%・出席状況 25%	

03年度以降	学校経営と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理・情報管理や人事管理など経営者としての役割と仕事求められる。学校図書館を活用し、総合的な学習など創造的な授業を構築する教員集団の援助活動も求められている。</p> <p>この科目では、これらの役割について、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施できるようになることを学習目的とする。</p> <p>本科目は学校図書館司書教諭免許取得のための必修科目であり、概論にあたる。学校図書館とは何か、学校図書館司書教諭とはどのような仕事をするのか、などを講義。学校図書館の機能として、教育・学習センター、資料センター、情報センター、教材開発センター、マルチメディア(含む視聴覚資料)センターなどの役割と機能を整理して理解する。</p>		<p>第1回:学校図書館の理念と教育的意義 第2回:学校図書館の発展と課題 第3回:教育行政と学校図書館 第4回:学校図書館の経営(1)施設管理 第5回:学校図書館の経営(2)資料管理 第6回:学校図書館の経営(3)人事管理 第7回:学校図書館の経営(4)財政管理、評価等 第8回:司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 第9回:学校図書館メディアの選択と管理 第10回:学校図書館メディアの提供と活用 第11回:学校図書館活動と教育活動 第12回:調べ学習が「総合的な学習」と学校図書館 第13回:図書館の相互協力とネットワーク 第14回:学校図書館運営計画の策定 第15回:まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(参考文献) 澤利政著「学びを豊かにする学校図書館」関西学院大学出版会、2004. ¥2,200</p>		<p>授業参加(出席など)・・・25% *実習以外は欠席を認めない。 小課題・・・25% 最終課題・・・50% *全課題提出を評価対象条件とする。</p>	

03年度以降	学校図書館メディアの構成	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ねらい) この科目では、学校図書館メディア・センターでの資料管理について講義・実習する。 図書館メディアセンターの資料選択及び資料組織化の実務を習得することを目標とする。 (概要) (1) 資料選択。 どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。 (2) 資料組織化の実習。 学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。</p>		<p>第1回:イントロダクション 第2回:学校図書館メディア資料の種類と特性 第3回:資料選択理論。子どもたちの知的自由と学校図書館の使命 第4回:資料選択の実際 第5回:分類ー日本十進分類法(NDC)ーの構造 第6回:分類の実際(1)ー主題同定ー 第7回:分類の実際(2)ー一般補助表の活用ー 第8回:分類の実際(3) 学習に応じた分類 第9回:目録ー日本目録規則(NCR)ーの構造 第10回:目録化の実際(1) 図書 第11回:目録化の実際(2) 雑誌・新聞 第12回:目録化の実際(3)クリッピング資料の整理 第13回:目録化の実際(4) 視聴覚資料の整理 第14回:目録化の実際(5) データベース化 第15回:目録検索</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(必須テキスト) 日本図書館研究会編「図書館資料の目録と分類増訂第3版」(ISBN4-930992-16-8) 2005. ¥900 (参考)「日本十進分類法新訂9版」日本図書館協会、1995</p>		<p>授業参加(出席)・・・25% *実習以外は欠席を認めない。課題演習が中心となるので欠席しないようにしてください。 課題(ほぼ隔週提出)・・・75%</p>	

03年度以降	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ねらい)</p> <p>各受講者がリーディング(読む)とリテラシー(書く)という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。授業案が作成できるようになることを第一段階とする。言語教育・リテラシー学習の基本の一つである子どもの読書を推進するため、学校教育のなかで言語教育担当教員のみならず、すべての教員の調整役＝コーディネーターとしての学校図書館司書教諭は重要な役割を担っている。この科目ではその役割をはたすため、どのような読書資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリテラシー教育に活用するかを学び、かつ学校内外での調整役としての役割と責任を学習する。</p> <p>(内容)</p> <p>読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちに楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせる。</p>		<p>第1回:子どもの読書状況</p> <p>第2回:読む・書くという識字力・読書力について考える</p> <p>第3回:子どもの発達心理・読書心理、読書傾向と知的 好奇心</p> <p>第4回:読書資料としての絵本</p> <p>第5回:読書資料としての児童文学</p> <p>第6回:読書資料としてのノンフィクション</p> <p>第7回:読書資料としてのヤングアダルト文学</p> <p>第8回:読書指導のためのプログラム検討</p> <p>第9回:読者育成のための教案作成</p> <p>第10回:「読みて」から「書いて」育成のための教案作成</p> <p>第11回:家庭での読書</p> <p>第12回:地域社会や公共図書館との連携による読書振興</p> <p>第13回:子どもの読書と知的自由</p> <p>第14回:子どもの読書をめぐる法政策</p> <p>第15回:まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。しかし多くの子ども・YA 向けの読書資料を読み評価してもらおう。		<p>授業参加(出席など)……25%</p> <p>*実習以外は欠席を認めないので注意すること</p> <p>課題(3×25%)……75%</p> <p>*全課題提出を評価対象条件とする。</p>	

03年度以降	学習指導と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ねらい)</p> <p>学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図る。</p> <p>(内容)</p> <p>教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用してどのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちに調べてもらうために、教師自身が情報探索能力をみにつけておくことが求められるので、情報探索活動能力(情報リテラシー)養成を目標とする。</p>		<p>第1回:教育課題と学校図書館</p> <p>第2回:発達段階に応じた学校図書館メディアの選択</p> <p>第3回:学校図書館情報メディア活用能力の育成</p> <p>第4回:学習過程における学校図書館メディア活用の実 際</p> <p>第5回:「総合的な学習」で学校図書館を利用する教案</p> <p>第6回:各教科での調べ学習と学校図書館</p> <p>第7回:学習指導過程における学校図書館メディア・セン ターの利用</p> <p>第8回:指導年間計画策定</p> <p>第9回:授業指導の実施(実習・発表)</p> <p>第10回:情報探索能力育成ー印刷媒体とインターネット 等電子媒体ー</p> <p>第11回:情報探索能力育成(実習;印刷媒体活用)</p> <p>第12回:情報探索能力育成(実習;商業DB活用)</p> <p>第13回:情報探索能力育成(実習;インターネット等活 用)</p> <p>第14回:教師集団との連携</p> <p>第15回:まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料およびインターネット資料などを活用する。(参考文献)『学校図書館論』補訂2版、塩見昇編 教育史料出版会 2003、澤利政著『学びを豊かにする学校図書館』関西学院大学出版会、2004		<p>授業参加(出席など)……25%</p> <p>*実習以外は欠席として認めない</p> <p>課題(5×15%)……75%</p>	

	*****	担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。</p> <p>【概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。 また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかも考察する。 次に、視聴覚メディア、インターネット、データベース、教育用ソフトウェアといったツールごとに、その活用方法について学校教育との関わりを見ながら具体的に論じていく。 そして最後に、学校図書館メディアと著作権の関わりを講じ、また、講義全体のまとめを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。「情報」について。 2 高度情報社会と学校教育；情報メディアの特性と選択 3 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用 4 インターネットによる情報検索と発信(1) 5 インターネットによる情報検索と発信(2) 6 インターネットによる情報検索と発信(3) 7 前半部分のまとめ；情報メディアの活用とは；質問受付 8 オフラインデータベースと情報検索(1) 9 オフラインデータベースと情報検索(2) 10 最新の情報メディア(1) 11 最新の情報メディア(2) 12 最新の情報メディア(3) 13 学校での取り扱いに注意すべき情報 14 学校図書館メディアと著作権 15 授業全体のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介する。授業の性格上、印刷媒体のみでなく電子媒体を多数紹介する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	